

全国視能訓練士学校協会

平成 27 年度教員研修会報告書

平成 27 年 3 月

平成 27 年度教員研修ワーキンググループ

はじめに

全国視能訓練学校協会の教員研修は、今年度で 8 回目となりました。この研修会は協会加盟校 29 校の教員の資質向上と教育指導内容の充実を図ることを目的としています。全国から教育経験の多い者から新人教員まで一堂に集い、学び合える貴重な時間となっています。

27 年度は、視能訓練士国家試験も第 46 回目になりました。国家試験ガイドラインが示されて数年経過しましたが、各校とも国家試験対策には苦心されているようです。今回、視能訓練士学校協会は統一模試実施に先立ち、良問作成のための留意点を本会長の国際医療福祉大学教授 新井田孝裕先生に「客観式試験問題作成の留意点」について教育講演を頂きました。

講演後のグループワークでは、学んだことに留意し、作問・発表をしました。作問の様々な決まりごとを基に、各グループでは熱を帯びた協同作業が繰り広げられました。自校へ戻ってからの模擬試験や定期試験に大いに役立ったと思います。

器械展示では、株式会社ティエムアイ様にご協力を賜り、視能検査器具のご展示に加え関連業界の紹介も頂きました。日々の教育の一助となる機器が沢山あったと思います。

以上、第 8 回全国視能訓練士学校協会教員研修の報告をさせていただきます。

平成 28 年 3 月 吉日

平成 27 年度教員研修ワーキンググループ

代表 提嶋紀枝 （吉田学園医療歯科専門学校）

露無陽子 （帝京大学）

加藤権治 （名古屋医専）

齋藤真之介 （九州保健福祉大学）

目 次

研修日程	1
教育講演	
講師略歴	4
グループワーク	
各班スライド	14
協賛会員協賛企画	28
研修風景（写真）	30
アンケート	
フォーマット	36
アンケート結果	38
意見・感想	41
アンケート単純集計	47
会長評価	48
編集後記	50
加盟校一覧	51

平成 27 年度 全国視能訓練士学校協会

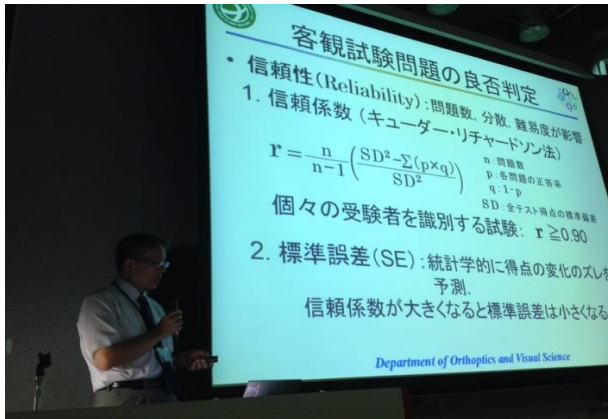
第 8 回教員研修 プログラム

- 目的:1. 視能訓練士養成施設の教育レベルの向上、教育指導方法の共有化、養成校教員個々の指導スキルの向上を目的とする。
2. 第 8 回研修では教育講演とグループワークを通して、客観式試験問題作成の留意点について学ぶことを目的とする。

受講対象者	全国視能訓練士学校協会 専任教員	
開催日時	平成 27 年 8 月 19 日(水)～20 日(木)	
研修会場	名古屋医専	
研修テーマ	研修Ⅰ(教育講演)「模擬試験問題作成の基本」について学ぶ 研修Ⅱ(グループワーク)「7 分野ごと模擬試験作成および発表」	
教育講演	「客観式試験問題作成の留意点」 講師:新井田 孝裕先生 (国際医療福祉大学 保健医療学部 視機能療法学科 教授)	
研修内容	教育講演とグループワーク 1 日目:教育講演、グループワーク、懇親会 2 日目:グループワーク発表 機器展示:13:00～19:00 株式会社 TMI	
8 月 19 日(水)	13:00	受付開始
	13:30	初日研修開始
	13:30～13:50	概略説明
	13:50～15:20	教育講演 (新井田 孝裕先生)
	15:20～15:50	記念写真、休憩、移動
	15:50～17:50	研修グループワーク
	19:00～21:00	懇親会
8 月 20 日(木)	9:00	開場
	9:15～10:15	2 日目研修開始・まとめ
	10:20～12:30	グループワーク発表
	12:30～13:15	修了証授与・会長講評・総括
	13:15～13:30	アンケート記載など、研修終了
	機器展示:9:00～13:30 株式会社 TMI	

教育講演

【講師略歴 新井田 孝裕(にいだ たかひろ)先生



【講師略歴】

北里大学大学院にて神経眼科専攻。医学博士(北里大学)。眼科専門医。東京都神経科学総合研究所で神経解剖学を修得、バージニア州立医科大学に留学し視覚生理学を修得。東芝林間病院眼科医長、北里大学医療衛生学部(視覚機能療法学専攻)講師、助教授を経て2002年、国際医療福祉大学教授・視機能療法学科長に就任、NHK放送技術研究所客員研究員(2002～2005)等を歴任。

【学術論文】

- 1) Processes and effects of correction with eyeglasses in a child with severe motor and intellectual disabilities: A case report. Clin Case Rep Rev1(8): 179-181, 2015
 - 2) 網膜色素変性症の羞明生起における特異的波長. あたらしい眼科32(9):1349-1354, 2015
 - 3) Evaluation of sensory dominance using binocular rivalry as related to ocular deviations. Am Orthopt J 65: 1-6, 2015
 - 4) Fixation duration changes in Rett syndrome after habilitation intervention. Int J Phys Med Rehabil 3: 271, 2015
 - 5) 呼吸リズムが瞳孔径の揺らぎに与える影響. 神経眼科32(2):148-153, 2015
 - 6) 青年健常者の視力の分布. 眼臨紀7(6):1-5, 2014
 - 7) 多職種連携による重症心身障害児(者)の客観的視機能評価法. 日本重症心身障害学会誌39(1):3-12, 2014
 - 8) Saccadic reaction time in alternating cover. Strabismus 21(2):74-77, 2013
- その他多数



客観式試験問題作成の留意点

全国視能訓練士学校協会 第8回教員研修会

2015. 8. 19

国際医療福祉大学 保健医療学部 視機能療法学科

新井田 孝裕

Department of Orthoptics and Visual Science



参考資料

- 第9回佐賀医科大学医学教育ワークショップ報告書 2003
- 吉田みつ子, 他: 多肢選択式問題作成マニュアルの開発. 看護教育45(12): 1124-1129, 2004.
- 朝倉京子, 他: 「多肢選択式問題作成マニュアル」に基づく問題作成の妥当性の検討. 看護教育46(1): 77-83, 2005.
- 赤根敦, 伊藤圭, 他: 識別指数による総合試験問題の項目分析. 大学入試センター研究紀要35: 19-47, 2006.
- 川本利恵子: 国家試験と客観試験における評価の考え方. 看護研究40(2): 3-9, 2007.
- 村瀬千春, 川本利恵子: 「試験問題作成の視点」の検討プロセス. 看護研究40(2): 11-25, 2007.
- 川本利恵子, 村瀬千春, 他: 試験問題ブラッシュアップの例. 看護研究40(2): 27-34, 2007.
- 福岡大学医学部総合試験問題作成マニュアル 2007

Department of Orthoptics and Visual Science



評価のもつ属性(1)

- 妥当性(Validity)**: 用いる評価方法が測定対象となる行動・能力を測定し得る程度.
- 内容妥当性**: 出題内容が予め示された到達目標を包括し、適切にサンプリングされているか否か.
- 概念的妥当性**: 行動領域に合った評価方法により測定しているか否か.
- 予測的妥当性**: 評価結果がその後の実際の遂行能力と相関を示すか否か.
- 併存的妥当性**: 評価結果が同様の能力を測定する別の評価方法による結果と相関を示すか否か.

Department of Orthoptics and Visual Science



評価のもつ属性(1)

- 信頼性(Reliability) = 再現性**: 同じ集団に同じ試験を何回行っても同じ結果が得られる程度. 統計学的には信頼係数, 標準誤差などで表現される.
- 客観性(Objectivity)**: 同じ領域の専門家の間で, 問題の正解に関して意見が一致している度合(客観試験は誰が採点しても結果は不変).
- 効率性(Efficiency)**: 試験実施の簡単さ, 採点の容易さ, 評価の時間的・経済的実用性.
- 特異性(Specificity)**: 解答者がある解答を選んだ理由を示す程度. 選択理由は形成的評価には重要.

Department of Orthoptics and Visual Science



多肢選択式問題(MCQ)

- Multiple Choice Question (MCQ)
一つの設問に対して正・誤の答えからなる選択肢を示し、受験者に最も適切と考える肢または肢の組合せを選ばせる試験方式



多人数に対して客観的で均質な採点が可能



妥当性は正解率、識別指数、肢別解答率で評価

Department of Orthoptics and Visual Science



客観試験問題の良否判定

- 妥当性(Validity)**
 - 正解率, 正答率, 難易度, 通過率(P)
受験者の何%が正解したか.
 $P = \text{正解者} / \text{受験者総数} \times 100(\%)$
 $P = 60 \sim 65(70)\%$: 適当(望ましい)
 $P = 20\%$: あて推量(chance level), 難問
 $P < 10\%$: 欠陥問題
 - 肢別解答率: 全ての肢で少なくとも2%以上あるとよい(植村, 1982)

Department of Orthoptics and Visual Science



客観試験問題の良否判定



2. 識別指数 (discrimination index, DI, Φ)

- 設問の識別力 (得点上位者と下位者を区別する指標) を示す値 (Kelly, 1939; Johnson, 1951) で、医学系教育の分野では医師国家試験問題 (高垣, 1974), 共用試験 CBT 問題 (仁田, 他, 2004), 看護師資格試験問題 (朝倉, 他, 2005) の解析に広く利用。
- 厚労省資料「成績の良い受験者 (成績上位25%の者) と悪い受験者 (成績下位25%の者) とを効率的に識別する能力を表す数値。問題が上位者, 下位者ともに全員正答は0, 上位者全員正答, 下位者全員誤答は+1, 上位者全員誤答, 下位者全員正答は-1である。良問 (勉強している人は解け, 勉強していない人は解けない問題) でDIは高くなる。

Department of Orthoptics and Visual Science



識別指数 (DI) の簡易式



$$DI(\Phi) = \frac{a - b}{n}$$

a: 成績順位上位者 (上位25%) で、その設問に正答した人数

b: 成績順位下位者 (下位25%) で、その設問に正答した人数

n: 全体の25%の人数

例) 1,000名が受験

a = 200名 (200/250)

b = 100名 (100/250)

$$DI = \frac{200 - 100}{250} = 0.4$$

0.50 < Φ	稀 (良問)
0.15 < Φ < 0.50	適当
$\Phi \leq 0.15$	質的に疑問
$\Phi < 0.0$	不適切

- 一般にPが低いと Φ も小さい
- Pが低く, Φ が小さい問題は内容妥当性を検討し, 採点除外となる場合あり
- P > 90% では Φ は小さい

Department of Orthoptics and Visual Science



今年の薬剤師国家試験



3月27日に結果が発表された第100回薬剤師国家試験で、全員が正解扱いとなる補正対象問題が11問あったことが波紋を呼んでいる。全345問中、正答が複数あるなどの不適切問題3問と合わせると計14問が全員正解扱いとなっており、合格者数の増加につながった可能性がある。前回、全員正解となったのは不適切問題1問のみで、補正対象問題はなかった。補正対象問題とは、厚生労働省が「問題としては適切であるが、今回の受験者の正答率および識別指数等を考慮し、全員を正解として採点する」と判断した問題。正答率が一定以下になった場合などに、その問題は全員正解とするが、基準は公表されていない。厚労省医薬食品局によると、補正対象にするかどうかについて、正答率などで一律の基準はないという。第100回試験で補正対象となる不正解者が多い問題が多発したことについては、「問題と受験者層が合っていないかった。今後、詳しく分析していきたい」と説明している。前回、前々回は補正対象問題はなかった。薬学部が6年制に移行した後、合格率は低下し続けていた。6年制最初の卒業生が国家試験を受験した2012年の合格率は88.31%、それ以降、2013年は79.10%、2014年は60.84%と年々低下していた。第100回は63.17%に向上し、合格者数は前回の7312人から9044人に大幅に増加している。合格基準は65%以上の正答という絶対評価であり、全員正解の問題が増えると合格者数の底上げにつながる。同局は「薬剤師として求められるレベルは年によって変わらず、難易度を変えることはない」と話している。

Department of Orthoptics and Visual Science



客観試験問題の良否判定



- 信頼性 (Reliability): 問題数, 分散, 難易度が影響

1. 信頼係数 (キューダー・リチャードソン法)

$$r = \frac{n}{n-1} \left(\frac{SD^2 - \sum(p \times q)}{SD^2} \right)$$

n: 問題数

p: 各問題の正答率

q: 1 - p

SD: 全テスト得点の標準偏差

個々の受験者を識別する試験: $r \geq 0.90$

2. 標準誤差 (SE): 統計学的に得点の変化のズレを予測。

信頼係数が大きくなると標準誤差は小さくなる。

Department of Orthoptics and Visual Science



模試 (看護教育) の分析表



問題別解答分析表

問題形式	模試試験の問題番号	内容	正解率	識別指数	正解	肢別解答率			
						1	2	3	4
必修問題	5	守秘義務	80.9	0.07	3	15.5	3.5	80.9	0.0
	29	輸液ポンプ	98.6	0.01	1	98.6	0.8	0.3	0.2
	24	持続導尿中の看護	92.9	0.05	4	0.1	6.7	0.2	92.9
	88	経口内服薬の援助	61.3	-0.06	3	37.0	0.9	61.3	0.6
一般問題	60	医療保険制度	42.5	0.16	2	15.1	42.5	12.6	29.7
	93	チームアプローチ	92.5	0.04	3	2.4	1.7	92.5	3.2
	88	看護職員の業務と義務	57.4	0.08	3	34.7	7.1	57.4	0.6
	109	呼吸のアセスメント	42.2	0.10	4	23.2	3.7	30.7	42.2
	72	生活習慣病	94.8	0.05	2	0.9	94.8	4.1	0.1
	53	尿路感染と起因菌	42.7	0.21	4	20.8	31.5	4.9	42.7
	午後40	手術療法時の看護	45.7	0.22	1	45.7	4.5	39.3	10.3
状況設定問題	午後41	疼痛苦痛の緩和	89.3	0.11	2	1.8	89.3	1.7	7.1
	午後42	身体所見・排泄物の正常性	92.1	0.09	4	2.5	4.1	1.2	92.1

出典: 朝倉京子, 他: 「多肢選択式問題作成マニュアル」に基づく問題作成の妥当性の検討。看護教育46(1): 77-83, 2005。表4を一部改変。

Department of Orthoptics and Visual Science



視能訓練士国家試験



試験科目	分類	国家試験での出題数			第43回からの新しい出題基準	出題数
		第40回	第41回	第42回		第43回
基礎医学大要	人体の構造と機能	4	5	3	人体の構造と機能、心身の発達・加齢	4
	心身の発達	2	3	2		
	疾病と障害	2	4	1	疾病と障害の成り立ち、回復過程の促進	6
	眼の解剖と生理	7	4	8	視機能の基礎と検査機器	8
	法律と保健医療福祉	3	2	2	保健医療福祉とリハの概念	4
基礎視能矯正学	両眼視機能・眼球運動	8	5	7	両眼視機能・眼球運動	5
	視覚生理学	17	15	15	視覚生理学	9
	生理光学	17	22	16	生理光学	13
視能検査学	眼科検査学	6	8	9	眼科検査学	12
	眼科薬理学	3	2	3	眼科薬理学	2
	視能訓練士の役割と義務	2	1	1		
視能障害学	眼疾病学	28	27	30	眼疾病学	25
	斜視	35	34	36	斜視	44
	弱視	1	3	2	弱視	7
	ロービジョン	3	6	5	ロービジョン	4
視能訓練学	弱視訓練	2	3	3	弱視訓練	2
	斜視訓練	10	6	7	斜視訓練	5

出典: 視能訓練士セルフアセスメント第6版 (追補版), 文光堂

Department of Orthoptics and Visual Science



合格水準設定方法(1)



- 最低合格水準 (Minimum Pass Level, MPL)
数名以上のジャッジが各問題の選択肢ごとに難易度コード「2点」, 「1点」, 「0点」をつけ判定表に記入。
「2点」= 正解あるいは合格認定を許容できる**最低能力**の受験者が, 正解と区別できなくとも止むを得ない選択肢
「1点」= 合格認定を許容できる**最低能力**の受験者が正解とすることもあれば, しないこともある選択肢
「0点」= 合格認定を許容できる**最低能力**の受験者が誤りと判断しなければならない選択肢

MPI (Minimum Pass Index) = $\frac{\text{正解選択肢の難易度コード値}}{\text{5つの選択肢の難易度コードの合計}}$
(問題ごとの最低合格指数)

$$\text{試験全体の MPL} = \frac{\sum \text{MPI}}{\text{問題数}} \times 100$$

Department of Orthoptics and Visual Science



合格水準設定方法(2)



- 修正 Ebel 法: 個々の選択肢ではなく問題単位での難易度を検討し正答率基準を設定。

必要度難易度分類表

必要度 \ 難易度	平易	中等	困難
必須	$0.80 \times n$ 個	$0.70 \times n$ 個	
重要	$0.70 \times n$ 個	$0.60 \times n$ 個	$0.50 \times n$ 個
疑問	$0.50 \times n$ 個	$0.40 \times n$ 個	$0.30 \times n$ 個

期待正答率 × 問題数 (n 個)

$$\text{正答率基準} = \frac{\sum (\text{期待正答率} \times \text{問題数})}{\text{問題数}} \times 100$$

Department of Orthoptics and Visual Science



過去に用いられた出題形式



K'タイプ

Adie 症候群について正しいのはどれか。

- (1) 女性に多い。
 - (2) 0.125% のピロカルピン点眼に反応する。
 - (3) 輻湊不全を合併する。
 - (4) 膝蓋腱反射が亢進する。
- a (1), (3), (4) のみ b (1), (2) のみ c (2), (3) のみ
d (4) のみ e (1) ~ (4) のすべて

4つの選択肢で選択肢の組合せは5種類
(各選択肢は均等に3つの組合せに出現)

Department of Orthoptics and Visual Science



過去に用いられた出題形式



K'タイプ

Adie 症候群について正しいのはどれか。

- (1) 女性に多い。
 - (2) 0.125% のピロカルピン点眼に反応する。 ➡ 正しい
 - (3) 輻湊不全を合併する。
 - (4) 膝蓋腱反射が亢進する。 ➡ 誤っている
- a ~~(1), (3), (4) のみ~~ b (1), (2) のみ c (2), (3) のみ
d ~~(4) のみ~~ e ~~(1) ~ (4) のすべて~~

残りは b か c のどちらかで確率は 50 %
(3) はあまり記憶にないので (1) を選択 → 正解

Department of Orthoptics and Visual Science



過去に用いられた出題形式



K2タイプ

K3タイプ

両側の縮瞳がみられるのはどれか。

- (1) 有機リン中毒
- (2) Argyll Robertson 瞳孔
- (3) 絶対性瞳孔強直
- (4) 瞳孔緊張症
- (5) Horner 症候群

- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3)
d (3), (4) e (4), (5)

5つの選択肢で選択肢の組合せは5種類
(各選択肢は均等に2つの組合せに出現)

兎眼の原因となるのはどれか。

- (1) 顔面神経麻痺
- (2) 動眼神経麻痺
- (3) 交感神経麻痺
- (4) 眼瞼痙攣
- (5) 眼球突出

- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5) c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4) e (3), (4), (5)

5つの選択肢で選択肢の組合せは5種類
(各選択肢は均等に3つの組合せに出現)

Department of Orthoptics and Visual Science



現在用いられている出題形式



Aタイプ

単純択一形式 (One-Best-Response) MCQ.

5つの選択肢の中に1つの正解肢 → Chance level = 20%

設問文 (stem) ➡ Adie 症候群について正しいのはどれか。

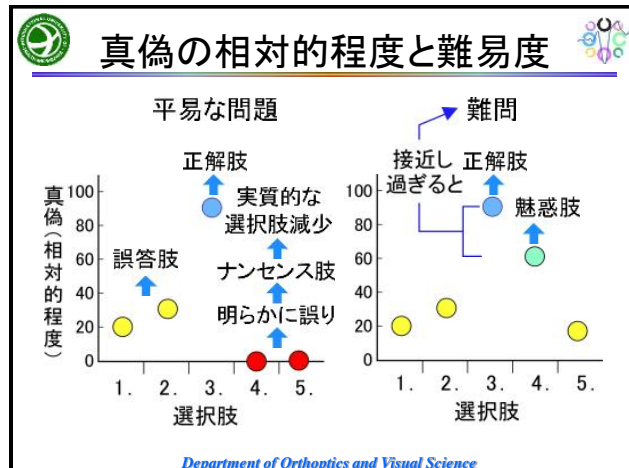
- 選択肢 (alternative) {
- (1) 男性に多い。
 - (2) 低濃度エピネフリン点眼に反応する。
 - (3) 瞼裂狭小がみられる。
 - (4) 膝蓋腱反射が亢進する。
 - (5) 明所で瞳孔不同は著明となる。 ➡ 正解選択肢 (correct response)
- } 誤答肢 (distracter)

Department of Orthoptics and Visual Science

選択肢における真偽の傾斜

- 多肢選択法(5肢択1): 単純択一形式(One-Best-Response) ➡ **最も相応しい最良肢を選べ。**
Better ではなく best を選べ。
- 選択肢間に異なった段階の正しさ(傾斜)があり、その間の違いを識別する能力・判断力を問う(一つの選択肢の真偽の相対的な程度は、ある連続線上にある。)
 - 20%正しい
 - 60%正しい
 - 90%正しい**
 - 10%正しい
 - 30%正しい
- 単純真偽形式(○×形式)の列挙にならないように留意する。

Department of Orthoptics and Visual Science



真偽の相対的程度(実例)

- 交代性上斜位で正しいのはどれか。 **第40回午前64**
 - 上下複視を自覚する。 ➡ 誤り
 - 先天眼振に合併する。 ➡ 広義には潜伏眼振を含む
 - 外方回旋を伴って上転する。 ➡ 正解肢
 - 両眼開放視力が片眼視力より不良である。 ➡ 誤り
 - プリズム交代遮蔽試験で斜視角を測定する。 ➡ 誤り
- 外眼部写真撮影で最も注意するのはどれか。
 - 傾き
 - 色調
 - 倍率
 - 露出
 - 手ぶれ
 ➡ 誤答肢はない、相対的程度で判定 **第39回午後40**

Department of Orthoptics and Visual Science

現在用いられている出題形式

X タイプ

多真偽形式(Multiple-True-False) 定数型MCQ.
5つの選択肢から複数の正解肢を選ぶ(五肢複択形).
X2: 正解肢を2つ選ぶ形式(定数2肢) Chance level=10%
X3: 正解肢を3つ選ぶ形式(定数3肢)

L タイプ

多選択肢: 6以上の選択肢から1つの正解肢を選ぶ。

XX タイプ

選ぶべき正解肢の個数を受験者に明示しない形式。
例: 「正しいものを全て選べ。」

Department of Orthoptics and Visual Science

現在用いられている出題形式

X 2 タイプ

両側の縮瞳がみられるのはどれか。2つ選べ。

- 有機リン中毒
- Argyll Robertson 瞳孔
- 絶対性瞳孔強直
- 瞳孔緊張症
- Horner 症候群

X 3 タイプ

兎眼の原因となるのはどれか。3つ選べ。

- 顔面神経麻痺
- 動眼神経麻痺
- 交感神経麻痺
- 眼瞼瘻痕
- 眼球突出

※ K2, K3タイプから組合せ選択肢を省いたもの
※ 視能訓練士国家試験でX 3タイプは未出題

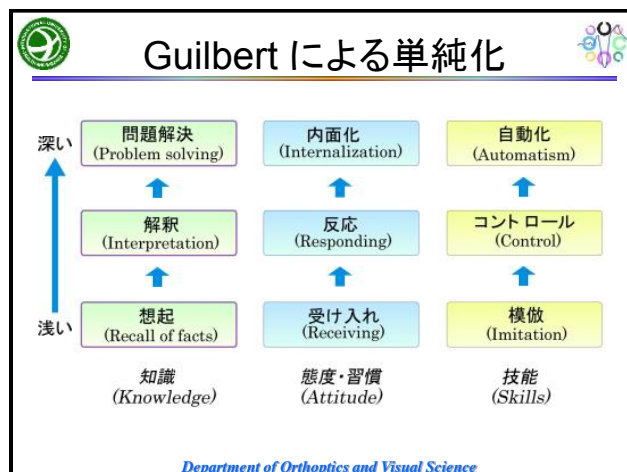
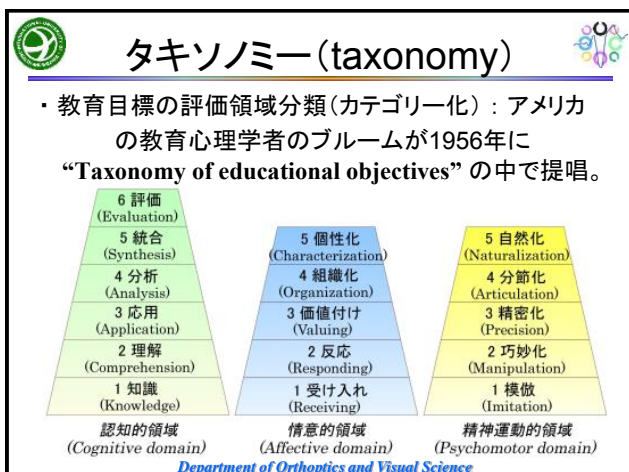
Department of Orthoptics and Visual Science

国家試験合格率と出題形式

視能訓練士国家試験の出題形式(過去4年間)

実施回	第42回			第43回			第44回			第45回		
全国平均合格率(%)	92.4			73.5			90.6			88.9		
	AM	PM	計	AM	PM	計	AM	PM	計	AM	PM	計
A タイプ	51	51	102	49	42	91	49	58	107	65	59	124
X2 タイプ	24	24	48	25	33	58	26	17	43	10	16	26
否定形の設問	8	15	23	17	12	29	12	17	29	19	14	33

Department of Orthoptics and Visual Science



タキソノミーによる分類

問題を解くのに要する知的能力のレベルによる試験問題の分類。受験者が解答するに当たって、どの程度の思考過程を要するかによって分類する。このような分類を教育目標別の評価領域分類(taxonomy)といい、一般に認知領域ではⅠ、Ⅱ、Ⅲ型に分けられ、順をおってより高度な知的能力を要するものとされている。

一般に、Ⅱ型はⅠ型を含み、Ⅲ型はⅠ型、Ⅱ型を含むので、Ⅰ型よりⅡ型、Ⅲ型が望ましい。

Department of Orthoptics and Visual Science

タキソノミーⅠ型

Ⅰ型: 想起 (knowledge, recall) レベル
主として一般問題、単純な知識の想起(記憶された単純な知識を思い出すこと)によって解答できる問題(知っていれば簡単に答えられる)。

例) Xは何か? 何々を列挙せよ。

平滑筋はどれか。2つ選べ。

1. 外眼筋
2. 眼輪筋
3. 瞼板筋
4. 上眼瞼挙筋
5. 瞳孔括約筋

設問 → 想起 → 解答

思考過程

Department of Orthoptics and Visual Science

タキソノミーⅡ型

Ⅱ型: 解釈 (interpretation, skills) レベル
設問文 or 解答肢の何れかで与えられた情報を理解・解釈して、その結果に基づいて解答する問題。
単純な想起のみでは解答できず、分析・理解し、解釈できる能力が要求される。理解・解釈という思考過程は1回のみ。

設問 (データ提示) → 理解・解釈 → 病名・病態像 → 解答

思考過程

Department of Orthoptics and Visual Science

タキソノミーⅡ型

1. 言葉・数式・表・グラフ・写真などの内容を他の表現に変換する。
2. 現象間の関係を認識する。
3. データの意味を解釈する。
4. 示されたデータから、その範囲を越えて、結果を推量する。

Department of Orthoptics and Visual Science

Department of Orthoptics and Visual Science



設問文



- 適切な文末表現を用いる。

誤っていないのはどれか(二重否定)→

正しいものはどれか。→

該当しないものを選びなさい。→

適切でない記載はどれか。→

- 複数の内容を同時に尋ねてはいけない。

例) 交代性上斜位, 潜伏眼振, 下斜筋過動症を合併しやすいのはどれか。

1. Brown症候群
2. Duane症候群
3. 先天性斜視
4. 調節性内斜視
5. 外転神経麻痺

第40回午後46

Department of Orthoptics and Visual Science



選択肢



- まぎらわしい、曖昧な表現を避ける。

「～してもよい」、「～のこと(が、も)ある」、「できるだけ」

「きわめて」、「しばしば」、「ほぼ」、「大体」

「高い」、「低い」: 程度を示す→ 基準・比較対象が必要

- 限定句は用いない。

「必ず」、「すべて」、「絶対に」: ほぼ誤りであると判断可。

- 選択肢はすべて対等の重みを持ち、同一範疇の事象であることが望ましい。

- 設問文と選択肢の間に整合性(一貫性)があるか。

- 各選択肢の長さが大体等しく、単語あるいは短文とする。

Department of Orthoptics and Visual Science



選択肢



- 一つの選択肢に2つ以上の内容を含まない。
 - 選択肢の配列に留意し、できるだけ論理的順序とする。
 - 二律背反の関係にあるペアを含まないこと(一つの肢が正解と分かると他の選択肢が誤りと判明する)。
 - Knapp's law で正しいのはどれか。2つ選べ。
1. 軸性の屈折異常眼に適応できる。
 2. 屈折性の屈折異常眼に適応できる。
 3. 眼の第1焦点に眼鏡レンズ面を一致させる。
 4. 眼の第2焦点にコンタクトレンズ面を一致させる。
 5. コンタクトレンズよりも眼鏡の方が不等像を生じる。

第40回午前11

Department of Orthoptics and Visual Science



注意すべき表現・表記



- 年齢別呼称

4週未満:

4週~1歳未満:

1~12歳:

13~18歳:

19歳以上:

「3ヶ月」→

- 旧字体は使用しない

「間歇性」→

「螢光」→「蛍光」

- 略字は使用しない

「才」→「 」

「后」→「 」

「巾」→「 」

「頸部」→「 部」

「年令」→「年 」

「後囊」→「後 」

「剥離」→「剥 」

Department of Orthoptics and Visual Science



注意すべき表現・表記



- 人名は原語で記載(例: ダウン症候群, パリノー 症候群)
- 薬品名は「~薬」と記載し商品名は避ける, 「~剤」は不可
- ×: 副腎皮質ホルモン製剤 →
- ×: 抗ウイルス剤 →
- A, B がある。→ A B がある。
- A, B, C が考えられた → A, B Cが考えられた
- 数日前より眼痛が増悪 → 数日前 眼痛が増悪
- 「より」は比較の場合のみ使用可: AよりBが大きい
- 1~2日 → 1, 2日(1~3日は可)
- A歳頃(A歳ごろ)、昼頃 → A歳ころ、昼ころ

Department of Orthoptics and Visual Science



注意すべき表現・表記



- 使用してはいけない一般表現(漢字)

未だ → いまだ

~且つ → ~かつ

~を来す → ~をきたす

~頃 → ~ころ

醒める → 覚める

出来る → できる

~等 → ~など

~成る → ~なる

並びに → 及び

外 → ほか

ほぼ → 約

優る → 勝る

観る・視る → 見る

看る → 診る

好い → 良い

解る・判る → 分かる

Department of Orthoptics and Visual Science



まとめ



- 評価のもつ属性: 妥当性、信頼性、客観性
- 客観試験問題の良否判定
- 合格水準の設定
- 多肢選択式問題の出題形式
- 選択肢における真偽の傾斜
- タキシノミーによる分類
- 問題作成の一般留意事項

グループワーク

模擬試験作成と発表

テーマ

- | | |
|-------------------------|------|
| ① 生理光学(基礎視能矯正学) | …1 班 |
| ② 視覚生理学(基礎視能矯正学・基礎医学大要) | …2 班 |
| ③ 両眼視機能と眼球運動(基礎視能矯正学) | …3 班 |
| ④ 眼科検査学(視能検査学) | …4 班 |
| ⑤ 眼疾病学(視能障害学) | …5 班 |
| ⑥ 斜視・弱視・ロービジョン(視能障害学) | …6 班 |
| ⑦ 斜視・弱視訓練学(視能訓練学) | …7 班 |

平成27年度 全国視能訓練士学校協会
第8回 教員研修 グループワーク発表

1班

グループワーク分野① 生理光学(基礎視能矯正学)

作成プロセス

- 班メンバーの経験から、正答率60～70%、識別率の高い分野を検討した。
- →正答率は、タキソノミーによる
- →識別率は、調節、プリズム、視力系が高い

生理光学(基礎視能矯正学)

A type

Ⅱ型 解釈型

問題1. 石原式近点計で測定した近点は10cm、+4D付加して測定した遠点は16.7cmであった。この眼の調節力はどれか。

1. 4D
2. 6D
3. 8D
4. 10D
5. 12D

生理光学(基礎視能矯正学)

A type

Ⅱ型 解釈型

問題1. 石原式近点計で測定した近点は10cm、+4D付加して測定した遠点は16.7cmであった。この眼の調節力はどれか。

1. 4D
2. 6D
3. 8D
4. 10D
5. 12D

作成プロセス

- 調節力の計算式の想起と石原式近点計の手技との理解・解釈

1. 4D → 4D付加が理解できていないと誤答
2. 6D
3. 8D → 正答
4. 10D → 調節力が理解できていないと誤答
5. 12D

生理光学(基礎視能矯正学)

A type

Ⅲ型 問題解決型

問題2 80歳の男性。水晶体摘出術を受け、無水晶体眼である。ケラトメータで測定された角膜曲率半径は、8.50mm 90°、8.70mm 180°である。乱視表を用いるとき、必要な雲霧量と線が濃く見える方向との正しい組み合わせはどれか。

- (雲霧量) (方向)
- 1 0.25D 垂直
 - 2 0.50D 水平
 - 3 0.75D 垂直
 - 4 1.00D 水平
 - 5 1.25D 垂直

生理光学(基礎視能矯正学)	
A type	Ⅲ型 問題解決型

問題2 80歳の男性。水晶体摘出術を受け、無水晶体眼である。ケラトメータで測定された角膜曲率半径は、8.50mm 90°、8.70mm 180°である。乱視表を用いるとき、必要な雲霧量と線が濃く見える方向との正しい組み合わせはどれか。

(雲霧量) (方向)

- | | |
|---------|----|
| 1 0.25D | 垂直 |
| 2 0.50D | 水平 |
| 3 0.75D | 垂直 |
| 4 1.00D | 水平 |
| 5 1.25D | 垂直 |

作成プロセス

- | | |
|----------------|--------|
| • ケラト値より乱視量が1D | 直乱視 |
| →雲霧量の推定 | →垂直が濃い |

- | | |
|---------|----|
| 1 0.25D | 垂直 |
| 2 0.50D | 水平 |
| 3 0.75D | 垂直 |
| 4 1.00D | 水平 |
| 5 1.25D | 垂直 |

苦労した点・留意点

- 生理光学の分野はタイプ分けが難しい。
- 選択肢が二律背反になりやすい。
- 肢別回答率が0%の選択肢が出てきてしまう。
- 解答者の解き方(簡易式or正確な求め方)によって違う値が導かれてしまうため、いずれの解き方でも正答肢が同じになるように値を設定する。

平成27年度 全国視能訓練士学校協会
第8回 教員研修 グループワーク発表

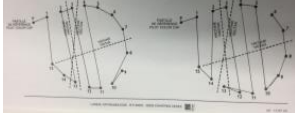
2班

グループワーク分野②

視覚生理学(基礎視能矯正学・基礎医学大要)

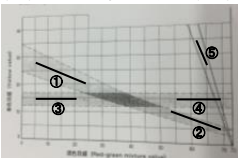
分野	視覚生理学(基礎視能矯正学・基礎医学大要)	
問題形式	A type	Ⅲ型問題解決

問題1 10歳の男児。他院にて色覚異常を指摘され精査を希望し来院した。Panel D-15の検査結果を示す。



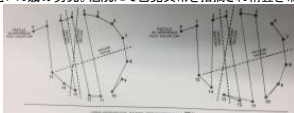
次にアノマロスコープ検査を行ったところ、混合目盛37～44、単色目盛13～16で等色が不成立であった。等色が成立する領域はどれか。

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤



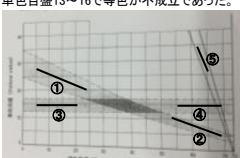
分野	視覚生理学(基礎視能矯正学・基礎医学大要)	
問題形式	A type	Ⅲ型問題解決

問題1 10歳の男児。他院にて色覚異常を指摘され精査を希望し来院した。Panel D-15の検査結果を示す。



次にアノマロスコープ検査を行ったところ、混合目盛37～44、単色目盛13～16で等色が不成立であった。等色が成立する領域はどれか。

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

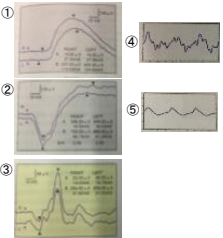


分野	視覚生理学(基礎視能矯正学・基礎医学大要)	
問題形式	A type	Ⅱ型解釈

問題2 18歳の男子。錐体ジストロフィー精査のためERGを施行したがコンタクト挿入後に緊張があり再検査となった。再検査前の結果を示す。

再検査前の結果で正しいのはどれか。

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

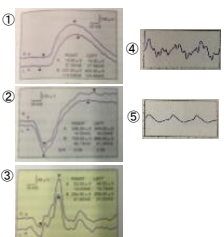


分野	視覚生理学(基礎視能矯正学・基礎医学大要)	
問題形式	A type	Ⅱ型解釈

問題2 18歳の男子。錐体ジストロフィー精査のためERGを施行したがコンタクト挿入後に緊張があり再検査となった。再検査前の結果を示す。

再検査前の結果で正しいのはどれか。

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤



平成27年度 全国視能訓練士学校協会
第8回 教員研修 グループワーク発表
3班
グループワーク分野③
両眼視機能と眼球運動

作成プロセス

1. 題材選択
2. 難易度の設定
3. タクソノミーの設定
4. 出題意図

作成プロセス(問題1)

1. 題材選択 : 担当分野(眼球運動)
2. 難易度の設定 : 易
3. タクソノミーの設定 : I 型A type
4. 出題意図 :
外眼筋作用の基礎的理解

1次作用のみでなく、2次作用、3次作用
も含めた知識の有無を問う

分野	基礎視能矯正学(視能検査学)	
問題形式	A type	I 型想起

【試作】

問題1 外眼筋と作用の組み合わせで正しいのはどれか。

1. 上直筋 … 下転。 ○ ○
2. 下直筋 … 内方回旋
3. 上斜筋 … 下転
4. 下斜筋 … 内転
5. 上斜筋 … 外方回旋

誤答率が0%の可能性がある

分野	基礎視能矯正学(視能検査学)	
問題形式	A type	I 型想起

問題1 外眼筋と作用の組み合わせで正しいのはどれか。

1. 上直筋 … 内転
2. 下直筋 … 内方回旋
3. 上斜筋 … 上転
4. 下斜筋 … 内転
5. 上斜筋 … 外方回旋

分野	基礎視能矯正学(視能検査学)	
問題形式	A type	I 型想起

問題1 外眼筋と作用の組み合わせで正しいのはどれか。

1. 上直筋 … 内転
2. 下直筋 … 内方回旋
3. 上斜筋 … 上転
4. 下斜筋 … 内転
5. 上斜筋 … 外方回旋

留意点

水平筋は作用が内転、外転のみしか無い為、選択肢には含まない。

「上斜筋」が選択肢として2つ出ているが、どちらかが正解であるとは限らない。

作成プロセス(問題2-1, 2)

1. 題材選択 : 担当分野(眼球運動/両眼視機能)
2. 難易度の設定 : 難
3. タキソノミーの設定 : II型 / III型 A type
4. 出題意図 :

- 眼球運動検査(複像検査)の原理の理解と結果の判定

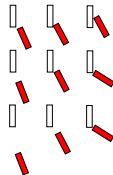
設問文の解釈、患者の訴えと検査結果から麻痺筋を判断し、患者の状態を推測する。

分 野	両眼視機能と眼球運動 (基礎視能矯正学)	
問題形式	A type	Ⅲ型

問題2-1 63歳女性。最近複視に気づき、来院した。右眼に赤ガラスを装用した複像検査の結果を下図に示す。

既往歴に特記すべきことはない。考えられる麻痺筋はどれか。

1. 右眼 上直筋
2. 右眼 下斜筋
3. 右眼 上斜筋
4. 左眼 上斜筋
5. 左眼 下斜筋

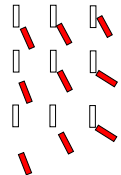


分 野	両眼視機能と眼球運動 (基礎視能矯正学)	
問題形式	A type	Ⅲ型

問題2-1 63歳女性。最近複視に気づき、来院した。右眼に赤ガラスを装用した複像検査の結果を下図に示す。

既往歴に特記すべきことはない。考えられる麻痺筋はどれか。

1. 右眼 上直筋
2. 右眼 下斜筋
3. 右眼 上斜筋
4. 左眼 上斜筋
5. 左眼 下斜筋



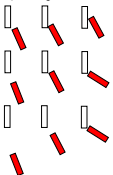
分 野	両眼視機能と眼球運動 (基礎視能矯正学)	
問題形式	A type	Ⅲ型

問題2-2 63歳女性。最近複視に気づき、来院した。

右眼に赤ガラスを装用した複像検査の結果を下図に示す。

既往歴に特記すべきことはない。最も考えられるのはどれか。

1. 顎上げ
2. 顎下げ
3. 右への斜頸
4. 左への斜頸
5. 顔の右まわし



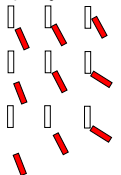
分 野	両眼視機能と眼球運動 (基礎視能矯正学)	
問題形式	A type	Ⅲ型

問題2-2 63歳女性。最近複視に気づき、来院した。

右眼に赤ガラスを装用した複像検査の結果を下図に示す。

既往歴に特記すべきことはない。最も考えられるのはどれか。

1. 顎上げ
2. 顎下げ
3. 右への斜頸
4. 左への斜頸
5. 顔の右まわし



平成27年度 全国視能訓練士学校協会
第8回 教員研修 グループワーク発表

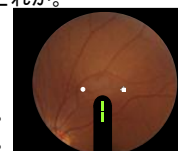
4班

グループワーク分野④ 眼科検査学(視能検査学)

分 野	眼科検査学(視能検査学)	
問題形式	A type	II 型解釈

問題1 眼底カメラ撮影時の様子を別図に示す。視神経乳頭を中心とした写真を撮影する方法として正しいのはどれか。

1. 患者に左下方視を促す。
2. 患者に右上方視を促す。
3. 検者側から見て外部固視灯を左上方に動かす。
4. 検者側から見て外部固視灯を右上方に動かす。
5. 検者側から見て眼底カメラのアームを右上方に振る。



分 野	眼科検査学(視能検査学)	
問題形式	X2 type	II 型解釈

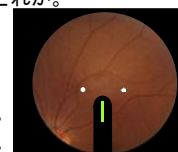
問題2 70歳の男性。視力検査の結果、右0.3(1.2×+1.75D=cyl-1.00D Ax 30°)である。
正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 混合乱視である。
2. 乱視矯正で使用するクロスシリンダーは±1.00Dである。
3. 放射乱視表を用いて検査を始める際は+1.25Dを使用する。
4. +1.75D装用時に患者は放射乱視表の1時方向が濃いと答える。
5. 最終矯正値に+0.50Dを加入すると赤緑試験で赤がはっきり見える。

分 野	眼科検査学(視能検査学)	
問題形式	A type	II 型解釈

問題1 眼底カメラ撮影時の様子を別図に示す。視神経乳頭を中心とした写真を撮影する方法として正しいのはどれか。

1. 患者に左下方視を促す。
2. 患者に右上方視を促す。
3. 検者側から見て外部固視灯を左上方に動かす。
4. 検者側から見て外部固視灯を右上方に動かす。
5. 検者側から見て眼底カメラのアームを右上方に振る。



分 野	眼科検査学(視能検査学)	
問題形式	X2 type	II 型解釈

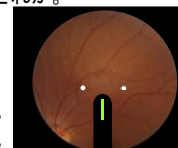
問題2 70歳の男性。視力検査の結果、右0.3(1.2×+1.75D=cyl-1.00D Ax 30°)である。
正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 混合乱視である。
2. 乱視矯正で使用するクロスシリンダーは±1.00Dである。
3. 放射乱視表を用いて検査を始める際は+1.25Dを使用する。
4. +1.75D装用時に患者は放射乱視表の1時方向が濃いと答える。
5. 最終矯正値に+0.50Dを加入すると赤緑試験で赤がはっきり見える。

分 野	眼科検査学(視能検査学)	
問題形式	A type	II 型解釈

問題1 眼底カメラ撮影時の様子を別図に示す。視神経乳頭を中心とした写真を撮影する方法として正しいのはどれか。

1. 患者に左下方視を促す。
2. 患者に右上方視を促す。
3. 検者側から見て外部固視灯を左上方に動かす。
4. 検者側から見て外部固視灯を右上方に動かす。
5. 検者側から見て眼底カメラのアームを右上方に振る。



分 野	眼科検査学(視能検査学)	
問題形式	X2 type	II 型解釈

問題2 70歳の男性。視力検査の結果、右0.3(1.2×+1.75D=cyl-1.00D
Ax 30°)である。
正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 混合乱視である。
2. 乱視矯正で使用するクロスシリンダーは±1.00Dである。
3. 放射乱視表を用いて検査を始める際は+1.25Dを使用する。
4. +1.75D装用時に患者は放射乱視表の1時方向が濃いと答える。
5. 最終矯正値に+0.50Dを加入すると赤緑試験で赤がはっきり見える。

平成27年度 全国視能訓練士学校協会
第8回 教員研修 グループワーク発表

5班

グループワーク分野⑤ 眼疾病学(視能障害学)

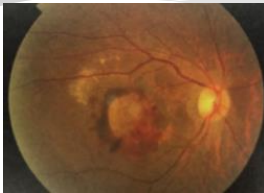
分 野	眼疾病学(視能障害学)	
問題形式	A type	Ⅲ型：問題解決型

次の文を読み、問題1、2を答えよ。

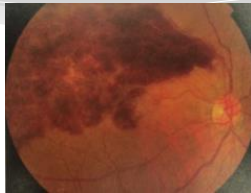
問題1

48歳、男性。内科から紹介で眼科を受診した。
視力は右(0.6×S+0.50D)、左(0.8×S+0.50D)。
眼圧は右、左とも20mmHg。眼底写真を撮影した。
考えられるのはどれか。

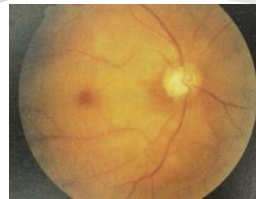
1.



2.



3.



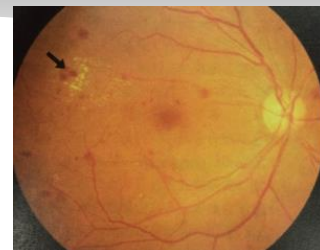
4.



5.



4. 糖尿病網膜症



分 野	眼疾病学(視能障害学)	
問題形式	A type	Ⅲ型:問題解決型

問題2 この患者に現時点で必要な治療はどれか。

1. 内科的治療
2. 眼圧下降薬
3. 硝子体手術
4. 副腎皮質ステロイド薬
5. 抗VEGF薬硝子体注射

分 野	眼疾病学(視能障害学)	
問題形式	A type	I 型:想起

問題3 瞼裂狭小をきたすのはどれか。

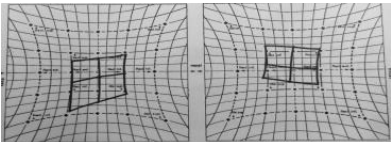
1. Adie症候群
2. Fisher症候群
3. Weber症候群
4. Horner症候群
5. Mobius症候群

平成27年度 全国視能訓練士学校協会
第8回 教員研修 グループワーク発表
6班
グループワーク分野⑥
斜視・弱視・ロービジョン(視能障害学)

分野	斜視・弱視・ロービジョン(視覚障害学)	
問題形式	X2 type	Ⅱ型解釈

問題1 Hess赤緑試験の結果を図に示す。
正しいのはどれか。2つ選べ。

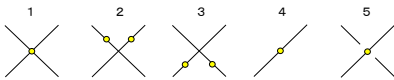
- 1. 眼瞼下垂がみられる。
- 2. 内下転制限がみられる。
- 3. 網膜対応は正常である。
- 4. 障害部位はせきかくである。
- 5. 右への傾斜で複視が軽減する。



視能学 第二版 P.350より引用

分野	斜視・弱視・ロービジョン(視覚障害学)	
問題形式	A type	Ⅲ型問題解決

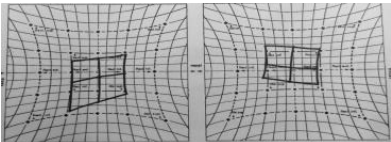
問題2 8歳女児、眼位異常を主訴に来院した。視力は右1.2(矯正不能)、左1.2(矯正不能)。
大型弱視鏡検査を行った結果、他覚的斜視角+18°、自覚的斜視角+6°であった。
Bagolini線条ガラス試験を右眼45°、左眼135°に装用して行った。
結果として考えられるのはどれか。



分野	斜視・弱視・ロービジョン(視覚障害学)	
問題形式	X2type	Ⅱ型解釈

問題1 Hess赤緑試験の結果を図に示す。
正しいのはどれか。2つ選べ。

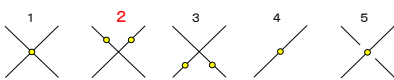
- 1. 眼瞼下垂がみられる。
- 2. 内下転制限がみられる。
- 3. 網膜対応は正常である。
- 4. 障害部位はせきかくである。
- 5. 右への傾斜で複視が軽減する。



視能学 第二版 P.350より引用

分野	斜視・弱視・ロービジョン(視覚障害学)	
問題形式	A type	Ⅲ型問題解決

問題2 8歳女児、眼位異常を主訴に来院した。視力は右1.2(矯正不能)、左1.2(矯正不能)。
大型弱視鏡検査を行った結果、他覚的斜視角+18°、自覚的斜視角+6°であった。
Bagolini線条ガラス試験を右眼45°、左眼135°に装用して行った。
結果として考えられるのはどれか。



平成27年度 全国視能訓練士学校協会
第8回 教員研修 グループワーク発表

7班

グループワーク分野⑦
斜視・弱視訓練学(視能訓練学)

分 野	・弱視訓練学(視能訓練学)	
問題形式	X2 type	II 型解釈

問題1 5歳女児。就学前検診で視力低下を指摘され来院。
アトロピン硫酸塩による精密屈折検査では右眼+1.50D、左
眼+5.00Dで、矯正視力は右(1.0)、左(0.5)であった。
眼位異常はない。

適切な視能訓練はどれか。2つ選べ。

1. 健眼遮閉法
2. 完全屈折矯正
3. 単眼固視訓練
4. Moore-Johnson法
5. ペナリゼーション法

1. 作成プロセス・出題意図
・国家試験の動向で弱視訓練の問題が多い。
・臨床上でも不同視弱視に対する訓練の知識が必要。
・検査所見より不同視弱視と判断し、適切な治療法を選ぶ。
2. 作成時の留意点
・条件設定(年齢・屈折・視力)
⇒臨床からかけ離れた条件にならないように注意した。
・ナンセンス肢がないようにした。
・年齢を高めに設定
⇒就学前に短期間で視力向上を目指し5歳とした。

問題1 5歳女児。就学前検診で視力低下を指摘され来院。
アトロピン硫酸塩による精密屈折検査では右眼+1.50D、左
眼+5.00Dで、矯正視力は右(1.0)、左(0.5)であった。
眼位異常はない。

適切な視能訓練はどれか。2つ選べ。

1. 健眼遮閉法
2. 完全屈折矯正
3. 単眼固視訓練
4. Moore-Johnson法
5. ペナリゼーション法

分 野	・弱視訓練学(視能訓練学)	
問題形式	X2 type	II 型解釈

1. 作成プロセス・出題意図
・国家試験の動向で弱視訓練の問題が多い。
・臨床上でも不同視弱視に対する訓練の知識が必要。
・検査所見より不同視弱視と判断し、適切な治療法を選ぶ。
2. 作成時の留意点
・条件設定(年齢・屈折・視力)
⇒臨床からかけ離れた条件にならないように注意した。
・ナンセンス肢がないようにした。
・年齢を高めに設定
⇒就学前に短期間で視力向上を目指し5歳とした。

問題1 5歳女児。就学前検診で視力低下を指摘され来院。アト
ロピン硫酸塩による精密屈折検査では右眼+0.50D、左眼+3.00D
で、矯正視力は右(1.0)、左(0.6)であった。眼位異常はない。
ペナリゼーション法を行いたい。

適切な眼鏡度数はどれか。

1. R=+0.50D L=+3.00D
2. R=+0.50D L=+6.00D
3. R=+2.00D L=+3.00D
4. R=+3.50D L=+3.00D
5. R=+3.50D L=+6.00D

分 野	・弱視訓練学(視能訓練学)	
問題形式	X2 type	III 型解決

1. 作成プロセス・出題意図
・国家試験の動向でペナリゼーションの問題が多い。
・検査所見より不同視弱視と判断。
・視力値より遠見ペナリゼーションが適切と考え、眼鏡
度数を選ぶ。
2. 作成時の留意点
・条件設定(年齢・屈折・視力)
⇒臨床からかけ離れた条件にならないように注意した。
・不同視差をつけ過ぎると、選択肢で除外されやすい。
・選択肢は各ペナリゼーションの度数とした。
(理解しているかを確認するため)

問題1 5歳女児。就学前検診で視力低下を指摘され来院。アト
ロピン硫酸塩による精密屈折検査では右眼+0.50D、左眼+3.00D
で、矯正視力は右(1.0)、左(0.6)であった。眼位異常はない。
ペナリゼーション法を行いたい。

適切な眼鏡度数はどれか。

1. R=+0.50D L=+3.00D
2. R=+0.50D L=+6.00D
3. R=+2.00D L=+3.00D
4. R=+3.50D L=+3.00D
5. R=+3.50D L=+6.00D

分 野	・弱視訓練学(視能訓練学)	
問題形式	X2 type	III 型解決

1. 作成プロセス・出題意図
・国家試験の動向でペナリゼーションの問題が多い。
・検査所見より不同視弱視と判断。
・視力値より遠見ペナリゼーションが適切と考え、眼鏡
度数を選ぶ。
2. 作成時の留意点
・条件設定(年齢・屈折・視力)
⇒臨床からかけ離れた条件にならないように注意した。
・不同視差をつけ過ぎると、選択肢で除外されやすい。
・選択肢は各ペナリゼーションの度数とした。
(理解しているかを確認するため)

第8回全国学校協会教員研修会 グループワーク名簿

分野		氏 名	所 属
①生理光学 (基礎視能矯正学)	1	藤戸 章子	吉田学園医療歯科専門学校
	2	中山 奈々美	東北文化学園大学
	3	鈴木 彩華	仙台医健専門学校
	4	生方 北斗	新潟医療福祉大学
	5	四之宮 佑馬	国際医療福祉大学
	6	野上 豪志	国際医療福祉大学
	7	岸上 幸代	大阪医療福祉専門学校
	8	吉里 聡	福岡国際医療福祉学院
②視覚生理学 (基礎視能矯正学・基礎医学大要)	1	四宮 敦志	吉田学園医療歯科専門学校
	2	小鷲 宏昭	帝京大学医療技術学部
	3	塩野 大輔	名古屋医専
	4	渡部 暁子	神戸総合医療専門学校
	5	高橋 由嗣	国際医療福祉大学
	6	横田 敏子	大阪医療福祉専門学校
	7	進藤 真紀	新潟医療福祉大学
	8	村田 憲章	新潟医療福祉大学
③両眼視機能と眼球運動 (基礎視能矯正学)	1	庄子 南美	仙台医健専門学校
	2	永谷 華代	京都医健専門学校
	3	稲垣 尚恵	愛知淑徳大学
	4	難波 哲子	川崎医療福祉大学
	5	八木 敏次	首都医校
	6	佐藤 かおり	東北文化学園専門学校
	7	内山 仁志	国際医療福祉大学
	*	露無 陽子	帝京大学医療技術学部
④眼科検査学 (視能検査学)	1	福田 洋貴	松江総合医療専門学校
	2	道見 照子	北海道ハイテクノロジー専門学校
	3	橋本 諭	大阪医療福祉専門学校
	4	畑中 深里	神戸総合医療専門学校
	5	桝田 浩三	大阪人間科学大学
	6	小林 泰子	川崎医療福祉大学
	7	中込 亮太	帝京大学医療技術学部
	*	齋藤 真之介	九州保健福祉大学
⑤眼疾病学 (視能障害学)	1	川岸 寿幸	吉田学園医療歯科専門学校
	2	浅野 浩一	東北文化学園大学
	3	梅津 綾乃	首都医校
	4	伊藤 歌奈子	東北文化学園専門学校
	5	中島 貴友	帝京大学医療技術学部
	6	田保 和也	大阪医療福祉専門学校
	7	佐藤 千鶴	大分視能訓練士専門学校
	*	加藤 権治	名古屋医専
⑥斜視・弱視・ロービジョン (視能障害学)	1	大西 淑子	北海道ハイテクノロジー専門学校
	2	川村 祐子	新潟医療技術専門学校
	3	今井 哲也	東京医薬専門学校
	4	大塚 美和子	大分視能訓練士専門学校
	5	田邊 恵子	仙台医健専門学校
	6	平木 たい子	大阪医療福祉専門学校
⑦斜視・弱視訓練学 (視能訓練学)	1	石井 滋人	東京医薬専門学校
	2	野原 尚美	平成医療短期大学
	3	金野 賀代	京都医健専門学校
	4	山本 雅美	神戸総合医療専門学校
	5	松本 美香	大阪医療福祉専門学校
	6	吉原 浩二	松江総合医療専門学校
	*	提嶋 紀枝	吉田学園医療歯科専門学校

*研修ワーキングメンバー(お世話役)

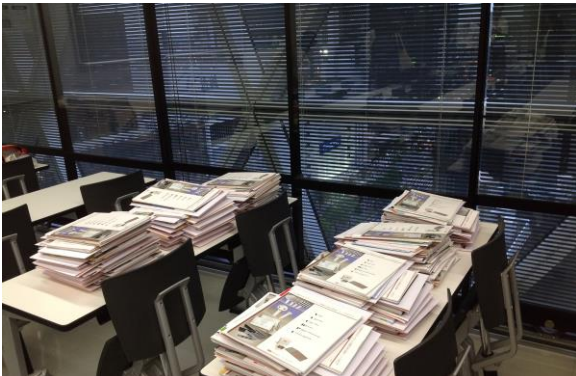
贊助會員協贊企画

賛助会員協賛企画

<機械展示>

○ 株式会社ティエムアイ : 器械展示

機械展示会場では検査器具を手に取り、質問や説明を受ける風景があちこちで見受けられました。
視能訓練士業務に関連した機器に特化した展示は学会と一味違い、集中して見る事ができたようです。



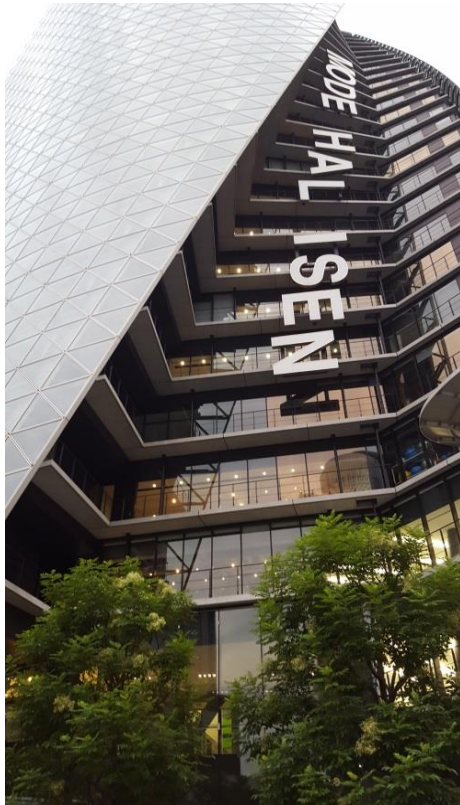
教育および臨床で役に立つ機器の情報を得られる貴重な時間となりました。日々の業務に追われる教員にとって最新の機器展示は大変ありがたいことです。

今回ご協力を頂いたに株式会社ティエムアイ様に感謝申し上げますとともに、賛助会員の皆様には今後ともご支援いただきたく WG 一同よりお願い申し上げます。

研修風景

1日目

会場・受付



教育講演



グループワーク

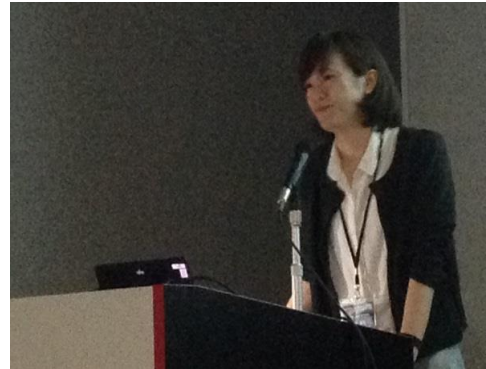
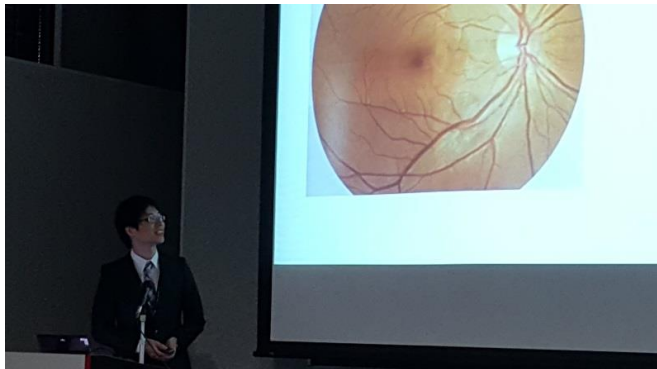


懇親会

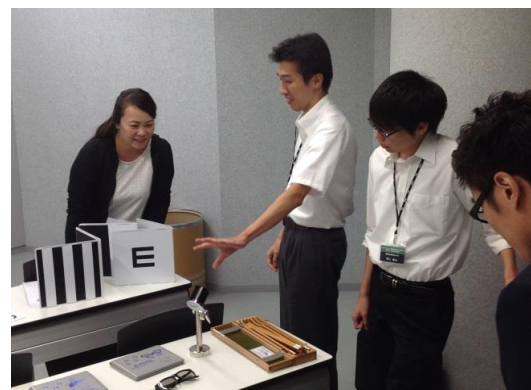


2日目

発表



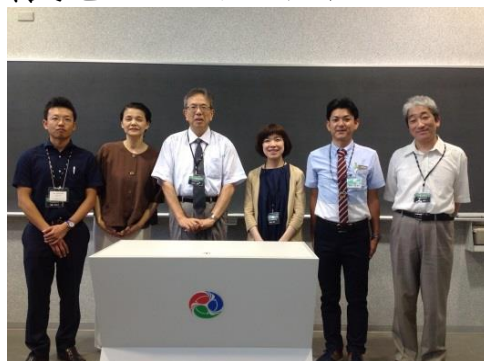
賛助会員器械展示



お茶タイム



会長とワーキングメンバー



修了証授与



集合写真



アンケート結果

第8回全国視能訓練士学校協会 教員研修会アンケート

全国視能訓練士学校協会教員研修ワーキンググループ

平成27年8月20日

第8回教員研修会へご参加いただきありがとうございました。

本研修会をよりよいものにしていくため、アンケートへのご協力をお願いいたします。

◇ 教 員 歴 (年 ヲ月) 視能訓練士歴 (年 ヲ月)

I 教員研修全体のプログラム構成について

- | | | | |
|---------------|------------|-------|------------|
| ① 教育講演 | (あったほうがよい) | 不要である | どちらともいえない) |
| ② 賛助会員によるセミナー | (あったほうがよい) | 不要である | どちらともいえない) |
| ③ 器械展示 | (あったほうがよい) | 不要である | どちらともいえない) |

II 研修会の運営について

- ① 開催日の設定 (よい よくない どちらともいえない)
ご自身として、いつ頃がよいでしょうか ()

- ② 全体タイムスケジュール (よい よくない どちらともいえない)

- ③ 参加費の金額(懇親会含む)はどのくらいがよいと思いますか
(4,000 円 5,000 円 6,000 円 7,000 円 その他 円)

- ④ 事前・直前アナウンスについて、何かご要望、ご意見等ございましたらお書き下さい。

[]

- ⑤ その他研修会運営に関するご意見、ご要望等

[]

Ⅲ 教育講演について

- ① 今回の講演の内容についてご意見・ご感想をお書き下さい。

[]

- ② 今後、教育講演で聴いてみたい内容があればお書きください。

[]

- ③ グループワークについて

- 1) グループワーク (あったほうがよい 不要である どちらともいえない)
2) 時間配分は適切だったか (適切である 長い 短い どちらともいえない)
3) 個々の発表時間 (適切である 長い 短い どちらともいえない)
4) グループ人数 (多い・ 少ない・ 適切)
5) その他ご意見、ご要望 (グループワークについて)

[]

Ⅳ その他

- ① 研修会は教育活動の参考になった (なった ならない どちらともいえない)
② また研修会に参加したいと思いますか (思う 思わない どちらともいえない)
③ 研修会全体に対するご意見、ご要望

[]

~~~~~

最後に、今回の研修を振り返って、ご自身の感想などをお聞かせください。

ご協力、ありがとうございました

第八回教員研修会 アンケート結果

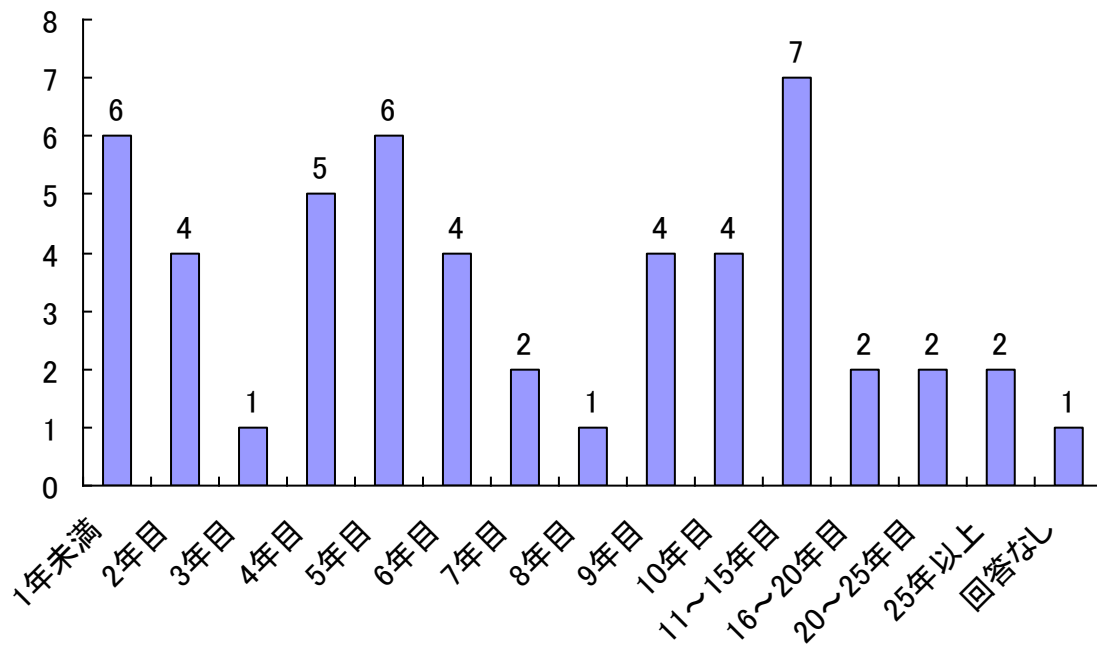
平成 27 年 8 月 19・20 日

参加者人数 54 名（全日程通し参加者 54 名）

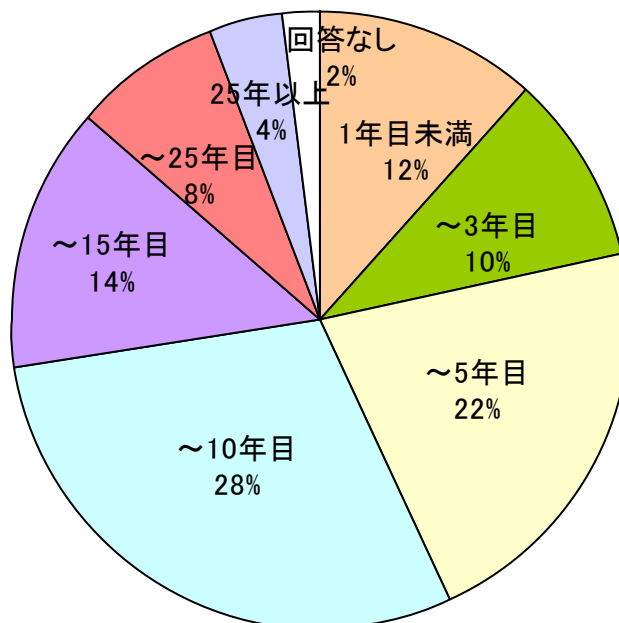
アンケート回答者数 51 名（94.4%）

参加者教員歴

教員歴

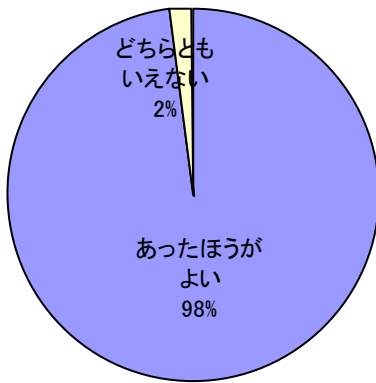


教員歴比率

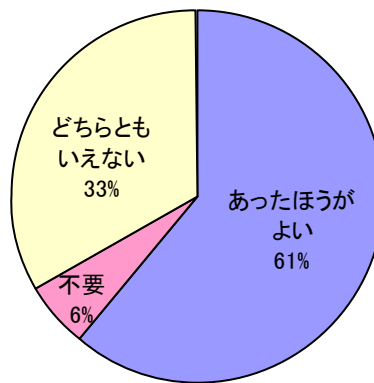


## I 教員研修全体のプログラム構成について

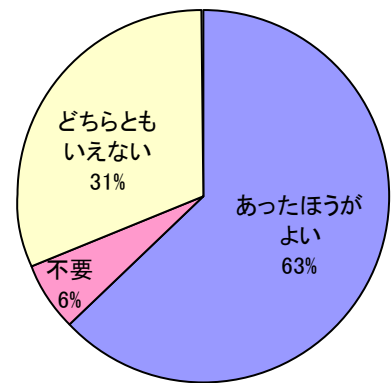
①教育講演



②賛助会員によるセミナー

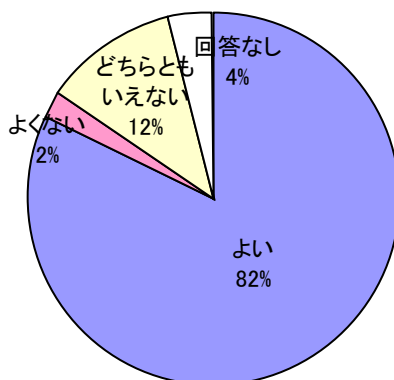


③器械展示

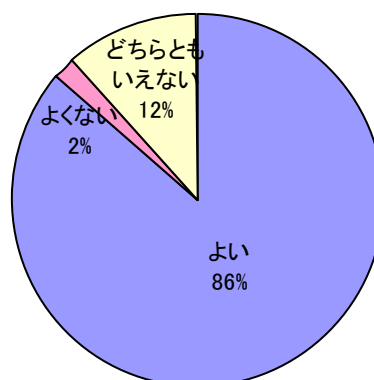


## II 研修会の運営について

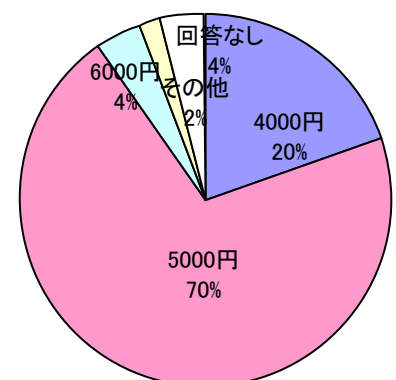
①開催日の設定



②全体タイムスケジュール



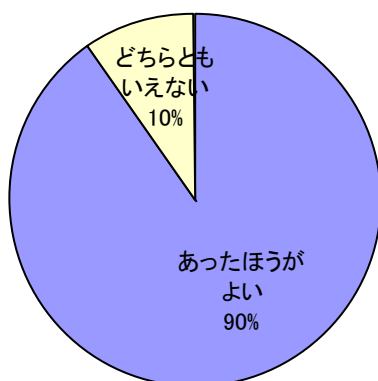
③参加費の希望



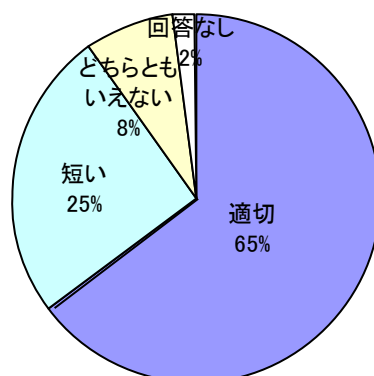


### Ⅲ・③ グループワークについて

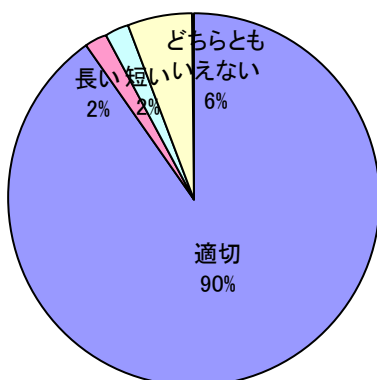
#### 1) グループワーク



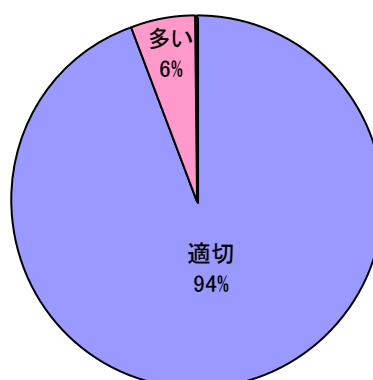
#### 2) 時間配分は適切だったか



#### 3) 個々の発表時間

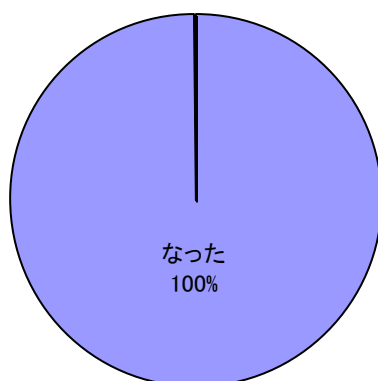


#### 4) グループ人数

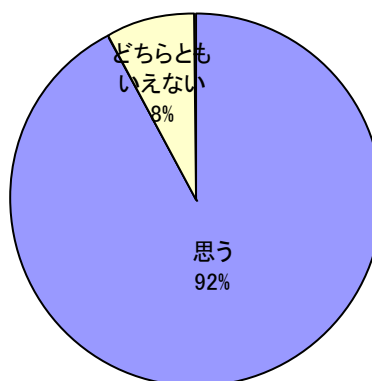


### Ⅳ その他

#### ①教育活動の参考になったか



#### ②また研修会に参加したいと思うか



意見・感想 (教員歴)

|                                                    |                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教<br/>育<br/>講<br/>演<br/>に<br/>つ<br/>い<br/>て</p> | <p>意<br/>見<br/>・<br/>感<br/>想</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の問題作成の参考にさせていただきます。(4 か月)</li> <li>・ とても勉強になりました。ありがとうございました。(4 か月)</li> <li>・ 問題作成の留意点などを学ぶことが出来て変良かった。今回のような講演は、普段聞くことが出来ない内容であると思うので今後も必要なことであると感じた。(4 か月)</li> <li>・ 問題作成の方法、出題範囲以外のプロセスについて深く考えたことが無かったですが、とても考えさせられました。(4 か月)</li> <li>・ 問題作成するうえで、気を付けなければいけない点がいくつかあり、とても勉強になりました。(4 か月)</li> <li>・ 問題作成の考え方が良くわかりました。ありがとうございました。(1 年)</li> <li>・ 作成のルール等をしっかり学ぶことができました。ありがとうございました。(1 年)</li> <li>・ 大変参考になりました。(2 年)</li> <li>・ 国試の出題基準について、深く理解できました。(3 年)</li> <li>・ 今まで模試を作った経験はありましたが、如何に自分が浅い考えで作っていたのかわかりました。学生の成長につながるようなしっかりした作問をしたと思います。(3 年)</li> <li>・ 勉強になりました。(4 年)</li> <li>・ 非常にためになった。今後の作成時に役に立てたい。(4 年)</li> <li>・ とてもためになりました。今後は活かしていきたいです。(4 年)</li> <li>・ 模試の作問にはいつも頭を悩ましていました。タキソノミーⅠ～Ⅲの各々の位置づけや設問・選択肢の注意点が理解できて良かったです。(4 年)</li> <li>・ 模試作成をするにあたり、統一した見解を持つことが出来たこと、様々なルールを学ぶことが出来たのは大変良かった。(4 年)</li> <li>・ 問題作成で留意すべき点について再確認することが出来ました。(5 年)</li> <li>・ 大変参考になった。今後の模擬作成は、もっと考えて作成およびデータを出し、学生に還元して行きたい。(5 年)</li> <li>・ 模擬試験作成のポイントが改めて理解できた。様々な角度からブラッシュアップをする必要性を実感しました。(5 年)</li> <li>・ 学内の作問、国試対策の研修よりも勉強になりました。(6 年)</li> <li>・ 大変勉強になりました。(7 年)</li> <li>・ グループワークとリンクしていて、参考になった。(8 年)</li> <li>・ 模擬試験を考えて行くのに、とても参考になりました。(8 年)</li> <li>・ 問題作成に対して多くの気づきがあり、今後に役立たせていきたいと思いました。(8 年)</li> <li>・ 今後の問題作成の質を上げることが出来ると思います。ありがとうございました。(8 年)</li> </ul> |
|----------------------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                    |                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教<br/>育<br/>講<br/>演<br/>に<br/>つ<br/>い<br/>て</p> | <p>意<br/>見<br/>・<br/>感<br/>想</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員としての訓練は受けていないのでこのような機会があるのは良いと思われる。(9 年)</li> <li>・ 日頃、問題作成にあたり、全く気にかけていなかった点などを学ぶことが出来ました。(9 年)</li> <li>・ 模試作問の規定について、整理できました。いろいろ考えれば考えるほど良問作成の難しさを痛感しました。(10 年)</li> <li>・ 自分が問題を作る時、どういう点に気を付けなければいけないか、どういう目的で問題を作るのかというのを改めて考える事ができました。(10 年)</li> <li>・ 非常に勉強になった。聞きやすかった。(11 年)</li> <li>・ 問題作成についての知識が整理できた。(13 年)</li> <li>・ 講義という形で教えて頂き大変勉強になりました。(13 年)</li> <li>・ 実際に問題を作るにあたり、大変身近に感じ良かったと思います。自分から積極的に他の職種等の動向も見えていかないといけないと思いました。(14 年)</li> <li>・ 模擬試験を作成する際の留意点を詳しく知ることができ、大変良かった。(19 年)</li> <li>・ 当校でも模擬試験を作成する時に何に注意をして作成すればよいか話し合っています。今回の講演を拝聴して大変勉強になりました。ありがとうございました。(19 年)</li> <li>・ 模擬試験の作成には、毎年悩むところですので、今回の新井田先生のご講演は大変勉強になりました。(22 年)</li> <li>・ 問題作成のバイブルとして活用したいと思います。ありがとうございました。(23 年)</li> <li>・ 大変勉強になりました。(25 年)</li> </ul> |
|----------------------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                      |                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教<br/>育<br/>講<br/>演<br/>に<br/>つ<br/>い<br/>て</p>                   | <p>今<br/>後<br/>聞<br/>い<br/>て<br/>み<br/>たい<br/>内<br/>容</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生に対する教育手法・接し方などについて聴いてみたい。(4 か月)</li> <li>・ 効率的な授業の進め方についての講演等、是非聞いてみたいです。(4 か月)</li> <li>・ 試験に繋がる授業 (1 年)</li> <li>・ レポートの書き方について。(1 年)</li> <li>・ 教育に用いる統計学について学ぶ機会がほしいです。(1 年)</li> <li>・ 授業の組み方。(3 年)</li> <li>・ 担当する学年によってどのような指導 (クラス作り、学習促進等) をすべきか。(3 年)</li> <li>・ 授業の進め方。(4 年)</li> <li>・ 実技試験や口頭試問のあり方、方法。(4 年)</li> <li>・ 学力不振学生への対応 (5 年)</li> <li>・ 暗黙知の伝承法について (6 年)</li> <li>・ 学生指導 (7 年)</li> <li>・ 学習障害、ネットリテラシー、学生のメンタルケアについて。(9 年)</li> <li>・ 学生のメンタルケア指導、家族や保護者とのかかわり方等、専門的な視点で教員がどこまでかかわることができるか等。(9 年)</li> <li>・ 昨今、成績の二極化がみられるが、多様なレベルの学生に対応するための方法、対策。ICT を用いた講義・実習の活用事例。(9 年)</li> <li>・ 実習記録レポートの書き方指導法 (10 年)</li> <li>・ 教育現場における SNS への対策。(11 年)</li> <li>・ 視能訓練士の将来性や市場に係る内容。(13 年)</li> <li>・ ハラスメントについての講演。メンタルケアについての講演。(14 年)</li> <li>・ SNS 教育上の光と影。(23)</li> </ul> |
| <p>グ<br/>ル<br/>ー<br/>プ<br/>ワ<br/>ー<br/>ク<br/>に<br/>つ<br/>い<br/>て</p> | <p>意<br/>見<br/>・<br/>要<br/>望</p>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループワークの時間をもう少し長くして頂きたいです。(4 か月)</li> <li>・ 他校の問題作成の仕方がわかり勉強になった。(3 年)</li> <li>・ GW の時間は本当にあっという間でした。全体の時間のこともあるかとは思いますが、もう少し他の先生と話が出来ればと感じました。(3 年)</li> <li>・ 事前にももう少し詳しい内容がわかっていたら予習できた。(4 年)</li> <li>・ グループワークの時間はいつも短く感じますが、全体のスケジュールを考えると今の時間配分が限界なのではないでしょうか？ (4 年)</li> <li>・ 模試作成がテーマとすれば、もっと人数を少なく (5 人位) GW を行った方が参加者全員の研修できたと思う。(5 年)</li> <li>・ もう少し長く考えることが出来ると良い。違った考えの教員の話が聞けて刺激になりました。(6 年)</li> <li>・ 話し合う中で親しみが増す大切な機会でした。(8 年)</li> <li>・ 意見を積極的に言える人と言えない人 (特に若い先生) とがいる。今回若い先生達に一問作成してもらってそれを検討することにした。グループ分けについて考えさせられました。(14 年)</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                     |

|                                           |                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研<br>修<br>会<br>運<br>営<br>に<br>つ<br>い<br>て | 開<br>催<br>日      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この時期で良い。(4 か月)</li> <li>・ 今の時期で良いと思います。(4 か月)</li> <li>・ 学校年間スケジュール次第です。(3 年)</li> <li>・ 今回、定期試験や追再試に当たっている。(4 年)</li> </ul>                                                                                                                                                                                         |
|                                           | 事<br>前<br>案<br>内 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ とてもスムーズで良かったと感じております。(3 年)</li> <li>・ 参加者全員に事前連絡がほしい。(4 年)</li> <li>・ タイムスケジュールもう少し早く教えて頂けると助かります。(9 年)</li> <li>・ 良かった。(10 年)</li> <li>・ 詳細が事前に届かず困惑した。(11 年)</li> </ul>                                                                                                                                            |
|                                           | そ<br>の<br>他      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パソコンを持参してこなかったもので、ホテルまで一日貸して頂ければありがたかったです。(1 年)</li> <li>・ いつもありがとうございます。ご準備頂くことを考えますと WG の先生方には頭が下がる想いです。スムーズな研修会 ありがとうございます。(4 年)</li> <li>・ お忙しい中ありがとうございます。(9 年)</li> <li>・ 名古屋医専のスタッフの皆様に親切に誘導などして頂き感動しました。ありがとうございます。(10 年)</li> <li>・ 時間がタイトで器械展示を見る時間がない。(14 年)</li> <li>・ WG 人数は少なくないですか？ (25 年)</li> </ul> |

|             |                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| そ<br>の<br>他 | 研<br>修<br>会<br>全<br>体<br>に<br>対<br>す<br>る<br>ご<br>要<br>望 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学、専門学校関係なしに視能訓練士という国家試験合格に向けて、各校の先生方の意見を聞けてとても勉強になりました。(4 か月)</li> <li>・ とても勉強になりました。本当にありがとうございました。(3 年)</li> <li>・ 器械展示をしっかりと見ることでできる時間がほしかったです。(4 年)</li> <li>・ 教員研修 WG の先生方、準備・運営などお疲れ様でした。大変有意義な研修でした。ありがとうございました。(5 年)</li> <li>・ 無駄のない会だったと思います。(6 年)</li> <li>・ WG の皆様、準備運営等ありがとうございました。とても楽しく実りのある研修だったと思います。(10 年)</li> <li>・ 今後、教員のキャリア別での研修や研修日程を増やすなど検討してほしいです。(13 年)</li> <li>・ お茶タイムが器械展示場でもよかった。室の事もあるかもしれませんが。(8 年)</li> <li>・ この研修会は若い先生を育てる為のものなのではないでしょうか。毎回出席する時に考えます。(14 年)</li> <li>・ いつも大変勉強になるテーマで本当に嬉しく思います。準備など非常に大変なこととは思いますが。ありがとうございます。(19 年)</li> <li>・ お疲れ様でした。(23 年)</li> <li>・ いつもありがとうございます。来年も期待しております。(25 年)</li> </ul> |
|-------------|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>感</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修を通して他校の先生との意見交換ができ、とても勉強になりました。次の研修会も参加できればと思っています。(4 か月)</li> <li>・ 初めての教員研修会の参加とで、とても勉強になりました。GW は、先生方の意見を沢山聞くことが出来、貴重な経験となりました。ありがとうございました。(4 か月)</li> <li>・ 初めての研修会だったため、問題作成のためのスキルなどを多く学ぶことが出来とても良かった。今回学んだことを今後の教育活動に活かしていけるようにしたい。(4 か月)</li> <li>・ 今回初めて教員研修会に参加させて頂き、とても勉強になりました。まだ問題作成を行ったことが無いため、問題を作成するのにもここまで頭を使うのだと驚きました。今後、問題作成をするにあたり、今回学んだことを活かしていきたいと思いました。(4 か月)</li> <li>・ 沢山の先生方の考え・意見を聞くことが出来参考になりました。(1 年)</li> <li>・ 初めての参加で、最初の方は他の先生方に圧倒され聞くだけになってしまったことが反省している点です。次回はもっと自分の意見が発信できるよう、準備していきたいと思います (1 年)。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>想</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作問の目的や意志をもっとはっきりさせなければと感じました。(3 年)</li> <li>・ 大変勉強になりました、良い刺激を受けました。ありがとうございました。(3 年)</li> <li>・ 問題作成についてもう少し時間をかけて話し合いをしたかった。今日の内容は第 2 回、第 3 回とやってほしい。(3 年)</li> <li>・ 大変良い研修会であったと思います。今回のような研修会であれば今後も参加したいと思います。(3 年)</li> <li>・ 運営のためのご尽力、当日のお世話役として動いて頂いた先生方に心より感謝申し上げます。多くの先生方と交流できるこのような研修会はとても有難いと思います。今回初めての参加でしたが、無理のない時間配分で負担無く参加できました。普段の試験問題でも活かしていきたいと思います。(4 年)</li> <li>・ 視能訓練士には業者の統一模試がないため、我々教員の作問スキルが非常に求められると思います。新井田先生の講演、グループワークを通し大変勉強になりました。また新たなひらめきを得ることが出来ました。今後活かしていきたいと思います。ありがとうございました。ワーキンググループの皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。(4 年)</li> <li>・ グループワークにて、様々な先生の考え方、ご意見をお伺いすることが出来、勉強になりました。(5 年)</li> <li>・ 現在、模擬試験問題を作成中であるため先生方の取り組みや考え方を伺うことが出来ました。作問のヒントを沢山いただきました。(5 年)</li> <li>・ 発表の準備が十分できず悔しい思いをした。今後またこのような機会があったらまた発表したいです。(6 年)</li> <li>・ 作問 GW を通して、模擬作成は一人をするのではなく、最初の段階から数名で色んな視点から作成したほうが良いなと感じました。学生に問題をしっかり読んでほしい・考えてほしいという思いが共通であると再認識でき、全国模試の実現が早くできると良いなと改めて思いました。(6 年)</li> </ul> |

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 感想 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大変勉強になりました。今後の作問の参考にさせて頂きたいと思います。また、細かな分析から問題の質を検討して行くことの重要性も知るもできました。(7年)</li> <li>・ 両日、多くの養成校のこれから活躍する先生方のパワーを頂きました。(8年)</li> <li>・ 今回、タキソノミー、識別指数など問題作成にあたって考えるレベルやポイントを知ることが出来ました。グループワークを通して多くの学びがありました。研修会に参加させて頂くことが出来大変良かったです。研修の準備・運営して頂いた協会役員の方々に感謝いたします。ありがとうございました。(8年)</li> <li>・ 良い会でした。(9年)</li> <li>・ いつもよい刺激をいただいて、研修後はモチベーションが高まります。是非今後も継続して研修参加させて頂きたいと思います。(9年)</li> <li>・ 他校の先生と沢山お話しができ、大変勉強になりました。教育講演もとても勉強になりました。本当にありがとうございました。(10年)</li> <li>・ 模試作成についてマンネリしていたところ、いろんな先生方のご意見や考えをお聞きし、今後のヒントを沢山得ることが出来ました。ありがとうございました。(10年)</li> <li>・ 他校の先生方と交流が出来、とてもよい機会でした。(11年)</li> <li>・ 良い刺激を受けることが出来ました。他校の先生との交流もできて良かったです。(13年)</li> <li>・ 学校が増え学生も増えていく中で、養成校教員の質向上のため大変良かったと思います。(13年)</li> <li>・ 今回の研修会で得たことを明日から即活かしていきたいと思います。なかなか客観式試験を作ることが出来ず困っていましたが、少し作れるような気がします。(19年)</li> <li>・ 今後の教務に役立つご講演で大変良かったと思います。また、グループワークでは他の学校の先生方と協力して作業をさせて頂き、自分のレベルアップになったと思います。(22年)</li> <li>・ 研修会がさらに良くなりますように祈っております。(23年)</li> <li>・ お世話になりました。いろいろとご配慮頂きましてありがとうございました。(25年)</li> </ul> |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



## アンケート単純集計

| 設問                 |              | 回答       |       |           |           |      | 回答数 |
|--------------------|--------------|----------|-------|-----------|-----------|------|-----|
| 教員研修全体のプログラム構成について | 教育講演         | あったほうがよい | 不要    | どちらともいえない |           |      | 51  |
|                    |              | 50       | 0     | 1         |           |      |     |
|                    | 賛助会員のセミナー    | あったほうがよい | 不要    | どちらともいえない |           |      | 51  |
|                    |              | 31       | 3     | 17        |           |      |     |
|                    | 器械展示         | あったほうがよい | 不要    | どちらともいえない |           |      | 51  |
|                    |              | 32       | 3     | 16        |           |      |     |
| 研修会の運営について         | 開催日の設定       | よい       | よくない  | どちらともいえない |           | 回答なし | 49  |
|                    |              | 42       | 1     | 6         |           | 2    |     |
|                    | 全体タイムスケジュール  | よい       | よくない  | どちらともいえない |           |      | 51  |
|                    |              | 44       | 1     | 6         |           |      |     |
|                    | 参加費の希望       | 4000円    | 5000円 | 6000円     | その他       | 回答なし | 49  |
|                    |              | 10       | 36    | 2         | 1         | 2    |     |
| グループワークについて        | グループワーク      | あったほうがよい | 不要    | どちらともいえない |           |      | 51  |
|                    |              | 46       | 0     | 5         |           |      |     |
|                    | 時間配分         | 適切       | 長い    | 短い        | どちらともいえない | 回答なし | 50  |
|                    |              | 33       | 0     | 13        | 4         | 1    |     |
|                    | 個々の発表時間      | 適切       | 長い    | 短い        | どちらともいえない |      | 51  |
|                    |              | 46       | 1     | 1         | 3         |      |     |
|                    | グループ人数       | 適切       | 多い    | 少ない       |           |      | 51  |
|                    |              | 48       | 3     | 0         |           |      |     |
| その他                | 教育活動の参考になったか | なった      | ならない  | どちらともいえない |           |      | 51  |
|                    |              | 51       | 0     | 0         |           |      |     |
|                    | また参加したいか     | 思う       | 思わない  | どちらともいえない |           |      | 51  |
|                    |              | 47       | 0     | 4         |           |      |     |

## 会長総評

教員の資質向上と教育指導内容の充実を図ることを目的に、平成 20 年度から始まった教員研修会ですが、皆様の暖かいご支援とご協力により、今年も全国から多数の教員の方々にご参加いただき、盛会のうちに無事終了することができました。学生募集を始めとする様々な学校行事でお忙しい中、教員の研修会への派遣に快く応じていただきました養成施設の関係各位には、この場をお借りして謹んで御礼申し上げます。

さて、2 期 4 年間にわたり当協会の発展にご尽力された前会長の赤松 滋子先生の後を受け、平成 27 年度より再び会長の職を務めさせていただくことになりました。平成 27 年度の第 8 回教員研修会では僭越ながら小職自身が「客観式試験問題作成の留意点」について教育講演を担当させていただきました。作問は学内の定期試験を始め、国家試験対策を兼ねた模擬試験など、教員の業務として大きな比重を占めています。ご存知のように視能訓練士の国家試験は他職種に比べ受験生の数がまだまだ少なく規模が小さいため、業者主催の模擬試験は存在しません。過去に出題された国家試験や眼科専門医試験を参考にしながら、教員各自が工夫を凝らして作成しているのが現状です。多肢選択式問題は大人数が受験するセンター入試や国家試験において客観的で均質な採点が迅速に実施できるため広く用いられていますが、その作成には様々なルールが存在し、また、学校協会としても数年前から統一模擬試験の導入を計画してきた経緯があります。小職は国家試験の出題には直接関与しておりませんので、今回、比較的自由的な立場から作問に関する以下の留意点を中心に、これまでの看護・医学教育の論文や報告書を参考にまとめてみました。まず、問題の良否に関しては妥当性 (Validity) の評価として正答率、肢別解答率、識別指数がよく用いられており、さらに信頼性 (Reliability) の評価や合格水準の設定が必要となる場合があります。さらに、出題形式の種類と現在用いられている A タイプと X2 タイプの年次出題割合の推移、選択肢の真偽の傾斜 (相対的頻度)、タキソノミーによる分類と実際の国家試験過去問を用いた解説に加えて、表現・表記に関する一般留意事項や選択肢における二律背反についてもお話ししました。自分では完璧な問題を作成できたと思っていても、時間が経ってからもう一度見直したり、他人から批評をいただいたりすると様々な問題点、改善点が浮き彫りになってくることはベテラン教員でも常々経験することです。このため、時間をかけて複数の教員でチェックしながら問題文や選択肢の内容、配列などを手直ししていく“ブラッシュアップ”の過程が必要不可欠です。特に経験年数の浅い若手教員ではどうしても知識や臨床経験の幅が狭いため、教科書に記載されていれば正解であると短絡的に判断する傾向があります。しかしながら、臨床は奥が深い上に、さまざまな考え方が存在するため画一的に正解にたどり着けない場合が多々あります。例年、グループワークでは経験年数や施設の異なる教員で各グループが構成されているため、若手教員にとっては経験豊かな教員から作問のスキルや臨床的視点を学ぶよい機会となり、一方、経験豊かな教員にとっても他施設の考え方や若手教員の思考過程を理解する上で有益なグループワークになったのではないかと思います。

さて、全国統一模擬試験の導入に関しては、リハビリ系の学校協会では以前より実施していますが、養成校の一部から積極的な参加は望まない、あるいは諸事情により問題提供は困難である

との意見が少なからず寄せられています。やはり“良問”を作成するのは大変な作業であり、各校でこれまで長年培ってきた歴史とノウハウがあり、問題を提供すると公開され、同じ問題を自校の試験では使えなくなるなどの弊害が生じることは十分認識しております。また、新たな問題を作成するには膨大な時間を要し、特に問題解決型（タキノノミーⅢ型）の臨床問題では検査所見や眼位等のデータ提示を伴うため、個人情報の保護や肖像権を含めて煩雑な作業であり、通常の学校業務に加えて負担が重いということも十分理解しております。しかしながら、たとえ不完全なものであっても、万難を排して一步を踏み出すことに意義があり、将来的に内容が充実することで参加校も徐々に増えていくことを期待しております。

さらに、学校協会では今後検討すべき案件としては、ガイドラインの整備はほぼ一段落しましたので、そろそろ国家試験の出題基準と指定規則の見直しに着手する時期に来ているのではないかと考えております。医療現場での診断機器の進歩は目覚ましく、10年前の知識や技術では今の医療に十分対応できません。指定規則の中には現在では入手困難な暗順応計や弱視治療に用いる訓練機器がいまだに含まれています。今後、訓練機器やロービジョンエイドはiPad等の情報端末を活用したものが主流になっていくと思われます。視能訓練士国家試験の出題基準については、リハビリ系他職種と基本的にその内容は類似しており、専門基礎分野には“保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念”も含まれていますが、その一方で、専門分野の項目は必然的に“視能”に直接関わるものが大部分を占め、発達障害や認知症・高次脳機能障害などは項目として取り上げられていません。昨今、多職種連携教育（IPE: Interprofessional education）の重要性が全国的に叫ばれており、他職種を目指す学生と一緒に指導したり、他職種の教員と意見を交わしたりする機会が増えてきていますが、教育の違い・考え方の違いを常々感じています。IPEでは視能訓練士の役割として視機能評価とロービジョンケアが重要です。発達障害や認知症・高次脳機能障害を有する症例で視機能の評価しロービジョンケアに携わる機会は増えてきていますが、疾患に関する基礎知識と診方、対処法をある程度学んでいるかどうかで評価の信頼性やケアの実践内容は大きく左右されます。大綱化で高次脳機能障害の授業は多くの学校で実施されているようですが、やはり実際の国家試験に出題されない項目では学生の理解は十分に深まりません。同様に、半側空間無視と同名半盲の違いが理解できないと、なかなかリハビリ系の討論には加われないのが現実です。さらに、発達障害は教育現場でその支援を含めて大きな問題となっており、公認心理師の国家資格化も控えています。視能訓練士は眼科医以外では唯一の視覚専門職ですので、視覚注意を含む認知機能の理解を深め、近見反応や眼球運動の多面的評価が実践できるようになることを期待しています。今後の方向性として、視能訓練士の社会的認知度をより高めていくためには他職種と交わり、他職種にその存在意義をしっかりとアピールしていくことが重要ではないかと考えています。

最後になりますが、企画から開催準備、報告書の取りまとめに至るまで、ご尽力いただいた教員研修ワーキンググループの諸氏にあらためて深謝申し上げます。

全国視能訓練士学校協会

会長 新井田 孝裕

## 編集後記

平成 27 年度 第 8 回教員研修の報告書を皆様のお手元へお届けいたします。  
ご一読いただき、何らかの形で皆様のお役に立つことができれば幸甚です。  
この度の研修は総数 54 名の参加となり、昨年に引き続き大勢の先生にご参加いただき、  
視能訓練士教育に携わるもの同士の繋がりを肌で感じ共感できた研修になったのではない  
でしょうか。  
研修終了後ご協力いただいたアンケートにも、皆様が真剣に日々取り組まれているからこそ  
生じる問題意識があり、より良き教育を模索する真摯な姿勢が伝わってきました。  
2 日間の短い研修ではありましたが、皆様の学生教育に少しでもお役に立つことを願い、  
研修報告書をまとめさせて頂きました。  
次回の教員研修会には更に充実したものになるよう努めさせていただきますので、今  
後ともどうぞ宜しくご理解とご協力をくださいますようお願い申し上げます。

平成 28 年 3 月 吉日

平成 27 年度教員研修ワーキンググループ

代表 提嶋紀枝 (吉田学園医療歯科専門学校)

露無陽子 (帝京大学)

加藤権治 (名古屋医専)

齋藤真之介 (九州保健福祉大学)



# 全国視能訓練士学校協会 加盟校一覧

|    | 施設名               | 学科名                          | 所在地       |
|----|-------------------|------------------------------|-----------|
| 1  | 吉田学園医療歯科専門学校      | 視能訓練学科                       | 北海道札幌市    |
| 2  | 北海道ハイテクノロジー専門学校   | 視能訓練士学科                      | 北海道恵庭市    |
| 3  | 東北文化学園専門学校        | 視能訓練士科                       | 宮城県仙台市    |
| 4  | 東北文化学園大学          | 医療福祉学部 リハビリテーション学科 視覚機能学専攻   | 宮城県仙台市    |
| 5  | 仙台医健専門学校          | 視能訓練士科                       | 宮城県仙台市    |
| 6  | 新潟医療技術専門学校        | 視能訓練士科                       | 新潟県新潟市    |
| 7  | 新潟医療福祉大学          | 医療技術学部 視機能科学科                | 新潟県新潟市    |
| 8  | 国際医療福祉大学          | 保健医療学部 視機能療法学科               | 栃木県大田原市   |
| 9  | 専門学校日本医科学大学校      | 視能訓練士科                       | 埼玉県越谷市    |
| 10 | 帝京大学              | 医療技術学部 視能矯正学科                | 東京都板橋区    |
| 11 | 東京医薬専門学校          | 視能訓練士科                       | 東京都江戸川区   |
| 12 | 首都医校              | 視能訓練士特科                      | 東京都新宿区    |
| 13 | 北里大学              | 医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻 | 神奈川県相模原市  |
| 14 | 平成医療専門学院          | 視能訓練学科                       | 岐阜県岐阜市    |
| 15 | 平成医療短期大学          | リハビリテーション学科 視機能療法専攻          | 岐阜県岐阜市    |
| 16 | 愛知淑徳大学            | 健康医療科学部 医療貢献学科 視覚科学専攻        | 愛知県長久手市   |
| 17 | 名古屋医専             | 視能療法学科/視能訓練士特科               | 名古屋市中村区   |
| 18 | 洛和会京都厚生学校         | 視能訓練士学科                      | 京都市山科区    |
| 19 | 滋慶京都学園 京都医健専門学校   | 視能訓練科                        | 京都市中央区    |
| 20 | 大阪人間科学大学          | 医療福祉学科 視能訓練専攻                | 大阪府摂津市    |
| 21 | 大阪医専              | 視能療法学科                       | 大阪市北区     |
| 22 | 大阪滋慶学園 大阪医療福祉専門学校 | 視能訓練士学科                      | 大阪市淀川区    |
| 23 | 神戸総合医療専門学校        | 視能訓練士科                       | 兵庫県神戸市須磨区 |
| 24 | 川崎医療福祉大学          | 医療技術学部 感覚矯正学科 視能矯正専攻         | 岡山県倉敷市    |
| 25 | 松江総合医療専門学校        | 視能訓練士科                       | 島根県松江市    |
| 26 | 福岡国際医療福祉学院        | 視機能療法学科                      | 福岡市早良区    |
| 27 | 平松学園 大分視能訓練士専門学校  |                              | 大分県大分市    |
| 28 | 九州保健福祉大学          | 保健科学部 視機能療法学科                | 宮崎県延岡市    |
| 29 | 西日本教育医療専門学校       | 視能訓練士学科                      | 熊本市東区     |

平成 27 年度

教員研修会報告書

平成 28 年 3 月発行

発行 全国視能訓練士学校協会

平成 27 年度事務局 平成医療専門学校  
501-1131 岐阜県岐阜市黒の 182

( 許可なく複写転載を禁ず )